



特定非営利活動法人 鳥の劇場

〒689-0405 鳥取県鳥取市鹿野町鹿野 1812-1

電話・ファックス 0857-84-3268

電子メール info@birdtheatre.org

ウェブサイト www.birdtheatre.org



特定非営利活動法人 鳥の劇場

## 2019年度 活動報告書

開かれた劇場。  
気づき、出会い、にぎわい、  
輝きの場として。





04	ご挨拶
05	活動報告 01 年間プログラム
20	活動報告 02 BeSeTo演劇祭26 +鳥の演劇祭12
26	活動報告 03 じゆう劇場
28	活動報告 04 トリジユク
29	活動報告 05 鳥の劇場以外での上演
30	活動報告 06 アウトリーチ活動
31	活動報告 07 その他の活動
32	報道資料
37	お客様の声
39	[資料1]鳥の劇場2019年度プログラム 観客アンケート集計結果
41	[資料2]鳥の劇場2019年度収支決算

## 2019年を振り返って

一年をざっと見返してみます。4月から5月の大型連休に子どもも大人も楽しめるミニ演劇祭。終わると5月から6月を中心に鳥取市立鹿野学園での怒涛の表現ワークショップ。全部の学年を対象に全員総出でどんどんワークショップをやるのです。並行しての秋以降のいろいろへの準備。夏には、鳥取と韓国安山市の高校生の交流実施でかなり悩みました。8月に富山県でのシアターオリピックス参加、戻ってくるとBeSeTo演劇祭／鳥の演劇祭同時開催超怒涛の準備・実行となり、終了後すぐ中国・四川省の演劇祭へ。一度成田空港に戻り、翌日フランスに移動して上演。両国でたいへん好評だったことに安堵して戻ってきたのが12月初め。すぐに再び鹿野学園での表現ワークショップ第二弾。年末を迎えつつ2月初演のプレヒト版「アンティゴネ」の準備本格化。このあたりから、新型コロナのニュースが駆け巡り、でもまだ対岸の火事のような。年明けは冬の寒さの中、集中して作品作り。並行してじゆう劇場上演。2月に無事に新作上演。この後コロナ感染状況が厳しくなり、小鳥の学校発表公演を熟慮の末実施したのが3月末。高校生を対象とした演劇の作り方講座を3月最終週に行って年度終了。

忙しいのですが、忙しいのは社会から必要とされている何よりの証拠。俳優、スタッフ共に、新しい人材がぐっと成長してくれた年でした。国内外の多くの信頼できる俳優やスタッフとの連携も安定しており、演劇人のエネルギーと創造性の集積によりこれだけの事業ができたことを誇らしく思います。海外マーケット進出の大きなきっかけを作れたことも収穫でした。

新型コロナ流行は、今後の活動展開に分厚い不透明な幕を垂らしています。が、人工稠密地域から遥かに遠い劇場立地、公共性を模索追求してきた10年以上の蓄積、周囲との間に築いてきた信頼は、我々にとって大きな宝であり、状況乗り越えのための最大の強みだと感じています。今後の活動のさらなる深化をみなさんに約束しつつ、みなさんからの変わらぬご理解・ご支援を切にお願いして、2019年の活動報告をお届けします。



特定非営利活動法人  
鳥の劇場  
代表理事 中島諒人

## 活動報告



# 1 年間プログラム

鳥の劇場は「創る」「いっしょにやる」「試みる」「招く」「考える」「若手演劇人の成長サポート」の6つのプログラムを事業の柱とし、年間プログラムを実施しております。国際演劇祭鳥の演劇祭の開催、学校教育・社会教育との連携、障がいのある人との創作、海外との交流など活動の幅を広げ、それらの実践の繰り返しを通じて、大都市で想定されるのとは異なる鳥取オリジナルの劇場の社会的な機能を発見、発展させてきました。2019年度は4プログラムを実施し、演劇芸術の価値を追求しました。

【期間】2019年4月～2020年3月

【会場】鳥の劇場

【実施】上演プログラム11演目・49回／アフタートーク14回／上演以外21事業・157回  
年間プログラム総来場者数(延べ)4,955人

- ・上演プログラム来場者数計3,647人
- ・アフタートーク参加者数計507人
- ・上演以外事業参加者数計801人

## 創るプログラム

大人も楽しめる子どものための  
ミニ鳥の演劇祭

『剣を鍛える話』

プレヒト版『アンティゴネ』

## いっしょにやる プログラム

戯曲の講座 名作を通じて  
「今」と出会う

子どものための「小鳥の学校」

## 試みるプログラム

高校演劇もっと盛り上げ事業  
「つくる高校生」

劇場で働く人たちを知る

余越保子滞在制作・  
ダンスワークショップ

## 若手演劇人の 成長サポート

若手演劇人の作品向上、  
社会との関係づくり支援事業

【主催】特定非営利活動法人鳥の劇場

【助成】文部科学省 平成31年度文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) |  
独立行政法人日本芸術文化振興会 公益財団法人ごうざん鳥取文化振興財団

【後援】鳥取県 鳥取市 鳥取県教育委員会 鳥取市教育委員会 NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会  
鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 新日本海新聞社 株式会社ふるさと鹿野

# 大人も楽しめる子どものための ミニ鳥の演劇祭

毎年春の大型連休には、ご家族で来場いただけるよう、大人も楽しめる子どものためのお芝居を上演しています。2019年度は「ミニ鳥の演劇祭」とし、お芝居やワークショップと、美味しいお弁当やスイーツで、春の鹿野の一日をのんびり楽しんでもらいました。



**[期間]**4月27日(土)～5月6日(月)  
**[会場]**鳥の劇場・しかの心  
**[実施]**9日 上演プログラム5演目・27回  
 ワークショップ2種・25回／体験5種・27回  
 総来場者数(延べ)2,827人  
 ・プログラム来場者数計 2,310人  
 ・ワークショップ参加者数計 282人  
 ・体験参加者数計 235人

## 上演

■構成・演出／中島諒人  
 ■スタッフ／衣装デザイン:安田茉耶 衣装制作:安田茉耶 太田涼子 高田裕子 中住明史 浜田あけみ 大道具:赤羽三郎 照明:生田正 楽曲制作:武中淳彦 音響・編曲:原伸弘[オハラ企画] 舞台監督:岩崎健一郎[ニケ・ステージワークス] 演出助手:越後綾音 英語翻訳:増川智子 字幕操作:増川智子 越後綾音 大川潤子 音楽ワークショッププランニング:武中淳彦 制作:鳥の劇場

『三びきのやぎのがらがらどん』  
 上演4回 来場者数計312人  
 ■原作／北欧民話  
 ■出演／語り・楽器:中川玲奈 大やぎ:中垣直久 中やぎ:緒方壮哉[libido:] 小やぎ:安田茉耶 トロル:齊藤頼陽

『さんしょうお』 **新作**  
 上演4回 来場者数計305人  
 ■台本／井伏鱒二  
 ■出演／中川玲奈 後藤詩織

『梨といっしょに売られた子』 **新作**  
 上演9回 来場者数計798人  
 ■原作／イタリア民話  
 ■出演／なしっこ:安田茉耶 他:高橋等 大川潤子 後藤詩織 緒方壮哉[libido:]

『どろぼうがっこう』  
 上演5回 来場者数計458人  
 ■原作／かこさとし  
 ■出演／語り:中川玲奈 くまさかどらえもん先生:齊藤頼陽 ネズミ小僧のじろきち:大川潤子 弁天じい:赤羽三郎 怪盗ショパン:緒方壮哉[libido:] 怪人三十面相:後藤詩織 石川のろくでなし:中垣直久 警察署長:高橋等

『アナンシと5』  
 上演5回 来場者数計437人  
 ■原作／ジャマイカ民話  
 ■出演／中川玲奈 安田茉耶 中垣直久



## ワークショップ

おんがくのワークショップ  
 ■ファシリテーター／松本智彦 開催16回 参加者数計141人  
 おしばいのワークショップ  
 ■ファシリテーター／齊藤頼陽 開催9回 参加者数計141人

## 体験

鹿野ぶらぶら町歩き  
 ■協力／ぶらっとしかのガイドの会 開催9回 参加者数計153人  
 たけのご掘り体験  
 ■協力／はらだ農産 開催2回 参加者数計16人  
 ポン菓子実演販売  
 ■協力／深澤製菓 開催1回 参加者数6人  
 ちまきづくり体験  
 ■協力／株式会社 Trees 開催2回 参加者数計23人 足立雅子 今川悦子 佐々木千代子 松田洋子 村上恵子  
 つくるデコレーションケーキ  
 ■協力／株式会社 Trees 開催8回 参加者数計37人



### 【学校招待公演】

**[実施]**3回 学校招待者数計200人  
 『どろぼうがっこう』上演とワークショップ  
 4月25日(木) 鳥取市立逢坂小学校1～6年生  
 5月10日(金) 鳥取市立東郷小学校1～6年生  
 5月14日(火) 鳥取市立鹿野学園1～4年生



# 剣を鍛える話

[期間]8月23日(金)~27日(火)  
[実施]5日 上演5回/アフタートーク5回

・プログラム来場者数計247人  
・アフタートーク参加者数計134人

## 【演出ノートより】

この作品は魯迅の短編小説「鑄劍」をそのまま台本として使っている。本テキストを取り上げたのには、いくつかの理由がある。一つは、この物語が、魯迅の個人的創作でなく、東アジアにおいて多くの人たちが親しんできた共有財と言えるものであること。原作は古代中国にまでさかのぼり、日本にも中国童話として伝わった。魯迅も日本留学の間に目にした。朝鮮半島にもきっと似たような話が伝わっているのだと思う。時代や国を超えた民衆の想像の産物を扱うことは、グローバル化の中で、均一化とナショナリズムという真逆のベクトルが同時進行する現代において格別な意味があるはずだ。

もう一つは政治的な課題。魯迅は、20世紀初期の中国における政治的変動の中で、社会変革に向けて個人の主体的な行動を願い、文学作品の中に様々に思いを込めた。本作も同様である。荒唐無稽な物語の中に、民衆の抵抗への期待、彼らへの鼓舞の気持ちが詰まって

いる。彼は同時に、しかしそれは結局無理だろうという絶望も描くのだが、本当に絶望しているのなら鼓舞などしない。絶望は、勇気ある行動への期待であり、成就が容易でないことも告げている。100年近く前から投げられたその付託に、現代の我々は応答しているか。彼からの問いは、癒えない傷のようにうずき続ける。

本上演では、あらゆる場面が、俳優の身体だけで演じられる。演劇的な力強さにあふれている。それは、観る人に身体によるこびとして伝わるだろう。ネットやスマホの時代に、多くの人忘れかけている人間的な愉しみである。

社会のあり方を根底から問う鋭い批判力と、体のよこび。両方は遠いものようだ。しかし、より良い生を願う人間的調和の中では、ともに不可欠のものだと言えないだろうか。

演出家/鳥の劇場芸術監督 中島諒人



- 原作/魯迅
- 翻訳/竹内好
- 構成・演出/中島諒人
- 出演/眉間尺・飲んべえの男・武士:中垣直久 眉間尺の父・黒い男・武士:齊藤頼陽 大王・父親・武士:山本芳郎[山の手事情社] 眉間尺の母・お話し好きの女・王妃:大川潤子 母親・楽器演奏:中川玲奈 王母・祭り好きのおじさん:高橋等 おじいさん・老臣:赤羽三郎 おばあさん・楽器演奏:増谷京子 子ども・宦官:安田菜耶 王の露払い・王妃:後藤詩織
- スタッフ/舞台美術:中島諒人 舞台監督:中井尋央[ステージワークURAK] 照明:生田正 音響:原伸弘[オハラ企画] 大道具製作:赤羽三郎 カミケタクヤ 小道具製作:谷口かおり 中垣直久 衣装デザイン・製作:安田菜耶 イ・ジンヒ(LEE JIN HEE) 作曲・ヴィオラ演奏:武中淳彦 舞台スタッフ:中島紀子(鳥取公演) 三枝淳(利賀公演) 英語字幕翻訳:増川智子 字幕オペレーション:浜田連珠 制作:鳥の劇場



# 新作 ブレヒト版『アンティゴネ』

[期間]2月19日(水)~25日(火)  
[実施]6日 上演6回/アフタートーク6回

・プログラム来場者数計400人  
・アフタートーク参加者数計232人

## 【演出ノートより】

一言で演劇と言ってもいろいろあって、別にどれが正しいとか間違っているということは全くないのですが、私にとっての演劇は、1)現在の社会状況に、ある論理を持って向き合い、2)俳優がエネルギーを持って演じ、3)視覚的・聴覚的にも非日常の美しさを持ち、4)要素の複雑な響きあい制御されつつ多様な意味を生み出すものでありたい、そんなふうを考えています。

さて今回は、2000年以上前にギリシャ神話を基に書かれたギリシャ悲劇が、19世紀ドイツの詩人ヘルダーリンによって翻訳されたものを踏まえて、ドイツ人劇作家ブレヒトが第二次大戦後に書き換えた戯曲「ブレヒト版アンティゴネ」を取り上げ、日本の高級老人ホームの発表会において演じるという設定で上演します。

つくづくおもしろいと思うのは、時や場所を超えて受け渡される人間の文化の不思議です。紀元前4世紀のエーゲ海

沿岸の一地域の文化の営みが、20世紀半ばのドイツで戦争の悲劇を考えるために使われ、それが21世紀の日本の現在を考える有効な虫眼鏡にもなる。受け継がれた古いものが、最新の時代検査装置になることのも不思議です。テクノロジーは古くなるが、芸術は古くならない。実におもしろいことだと思うのです。

この作品では、衣装のデザイン・製作を韓国の衣装作家イ・ジンヒさんにお願しました。外来の文化に向き合う時、自分の足元を見つめなければなりません。ジンヒさんに関わってもらうことで、権力、祭、神などのあり方について、アジアという一段広くより深い視点で考えられるようになったのではないかと考えています。

演出家/鳥の劇場芸術監督 中島諒人



- 原作/B・ブレヒト
- 翻訳/谷川道子
- 構成・演出/中島諒人
- 出演/アンティゴネ・長老:中川玲奈 クレオン・長老:齊藤頼陽 イスメネ・長老:大川潤子 ハイモン・長老:中垣直久 テイレシアス・長老:高橋等 番兵・長老:安田菜耶 使者・長老:後藤詩織
- スタッフ/舞台美術:中島諒人 舞台監督:中井尋央[ステージワークURAK] 舞台監督助手:赤羽三郎 照明:生田正 音響:原伸弘[オハラ企画] 大道具製作:株式会社ながお 衣装デザイン・製作:イ・ジンヒ(LEE JIN HEE) 衣装補助:安田菜耶 KIRI 劇中曲「アンティゴネの嘆き」作曲:武中淳彦 演奏:武中淳彦 西尾悦子 英語字幕監修:トーマス・ロイス・ハンブトン 字幕オペレーション:越後綾音 制作:鳥の劇場

※新型コロナウイルス感染者が日本国内でも見つかると、この事業から事業実施の検討を開始した。



2月24日(月・休)のアフタートークにはドイツ文学者であり、ブレヒト著「アンティゴネ」を翻訳された谷川道子さんにもご登壇いただきました。



ミニ鳥の演劇祭 ▼

アンティゴネ ▼

剣を鍛える話 ▼

## 戯曲の講座 名作を通じて「今」と出会う

[実施]6回 参加者数計53人 会場:ギャラリー鳥たちのいえ・鳥の劇場

■講師/中島諒人

- 三島由紀夫「近代能楽集」を読む1 「班女」 5月25日(土) 参加者数3人
- 三島由紀夫「近代能楽集」を読む2 「熊野」 7月12日(金) 参加者数2人
- ギリシア悲劇を読む1 ソポクレス著「オイディプス王」 9月20日(金) 参加者数2人
- ギリシア悲劇を読む2 ソポクレス著「アンティゴネー」 2020年1月31日(金) 参加者数17人
- プレヒトを読む1 「例外と原則」 2月22日(土) 参加者数14人
- プレヒトを読む2 「例外と原則」 2月23日(日) 参加者数15人



## 子どものための「小鳥の学校」

[期間]7月13日(土)~2020年3月22日(日) [実施]29日(授業23回/自主練4回) 受講者数20人

2019年度は、20名定員に対し、26名の応募があったため、抽選(くじ引き)を実施。前年度よりの継続参加14名、新規6名。継続参加の子どもたちと、新規参加の子どもたちとが、一つの事業の中で共存していく方法を模索しながらの実施となりました。

コロナ禍が広がる中、3月の発表公演の実施にあたっては、実施するかどうかを含め、子どもたちとその保護者との意見を交換しました。結果、鳥の劇場としては実施することを決断しましたが、1名のお子さんが出演辞退されました。

実施にあたっては、以下のことを守りました。

- 1) 観客数定員を満席の200席から半分の100席に減らし、距離を保って着席・観劇していただく
- 2) 同一の場所での滞留時間をできるだけ短くする
- 3) アルコール消毒液の設置
- 4) 掃除、換気の徹底
- 5) 熱や咳のある方は入場をお断りさせていただく

子どもたちによるプレゼンテーションは、密閉・密集・密接を避けるため少人数に分かれて会場を移動して行い、劇場は常時換気をしながら上演を行いました。

■監修/中島諒人

- 受講生サポート・記録撮影/中川玲奈 後藤詩織 笈洋子 中島紀子
- 講師/Yoo Taehoon(パフォーマー) 菊池ひみこ(ジャズピアニスト) 西尾悦子(ピアニスト) 上田假奈代(詩人) 大岡淳(劇作家) 目黒大路(舞踏家) 安田茉耶(衣装) 高橋等(演技) 中島諒人(演出) 赤羽三郎(舞台装置) 原伸弘(音楽)



発表公演『世界でいちばんやかましい音』 2020年3月21日(土)・22日(日) 上演2回 来場者数計192人

■原作/ベンジャミン・エルキン

■構成・演出/小鳥の学校受講生と中島諒人

■出演/小鳥の学校受講生:安東優 石本唯菜 伊奈環 上田一乃 植田菜花 宇山実桜 岡本新 亀井彩加 小林楓花 清水胡春 高橋鳴 中島加寛 中村圭吾 中山祈 中山楓 西川喜八 三宅遥乃 山田健太郎 山田笙介

■スタッフ/舞台監督:中川玲奈 演出助手:後藤詩織

中島紀子 衣装指導:安田茉耶 照明:生田正 音響:原伸弘[オハラ企画]

衣装チーム:中山祈 清水胡春 中山楓 上田一乃 小林楓花 高橋鳴 今田陽葵 植田菜花 石本唯菜 宇山実桜 中島加寛

舞台チーム:中村圭吾 山田笙介 安東優 西川喜八 岡本新

音楽チーム:伊奈環 三宅遥乃 山田健太郎 亀井彩加

台本づくり:受講生全員 追加台本:伊奈環 清水胡春

「ガヤガヤの町の歌」作曲:三宅遥乃 ピアノ演奏:亀井彩加 挿入曲サクソ演奏:安東優 小林楓花 挿入曲フルート演奏:上田一乃

音響操作:伊奈環 照明操作:中村圭吾 山田笙介 安東優 西川喜八 岡本新 小林楓花 宇山実桜



# 2019年度「小鳥の学校」を振り返って

## 【コロナの影響について】

ちょうど年度末の発表に向けて、子どもの集中とやる気がさらに高まっていく時期に日本でもコロナが蔓延し始めた。それにより公演準備や公演そのものの実現が疑問視されることとなった。国や鳥取県のコロナ対策方針を十分に考慮しながら、事業の継続は可能か。子どもたちの希望、保護者たちの考え、劇場の構えを、互いに深く知り合いながら、事業の継続の可否、もし可とするならそのやり方が論議された。

2月まではリピーターや上級生の発言が多く、小学生や発言が苦手な子の意見を聞く土壌が豊かではないことが課題だったが、この真剣な話し合いを通じて、自ら意見を持つこと、また自分とは違う意見についても深く考えることができるようになっていった。

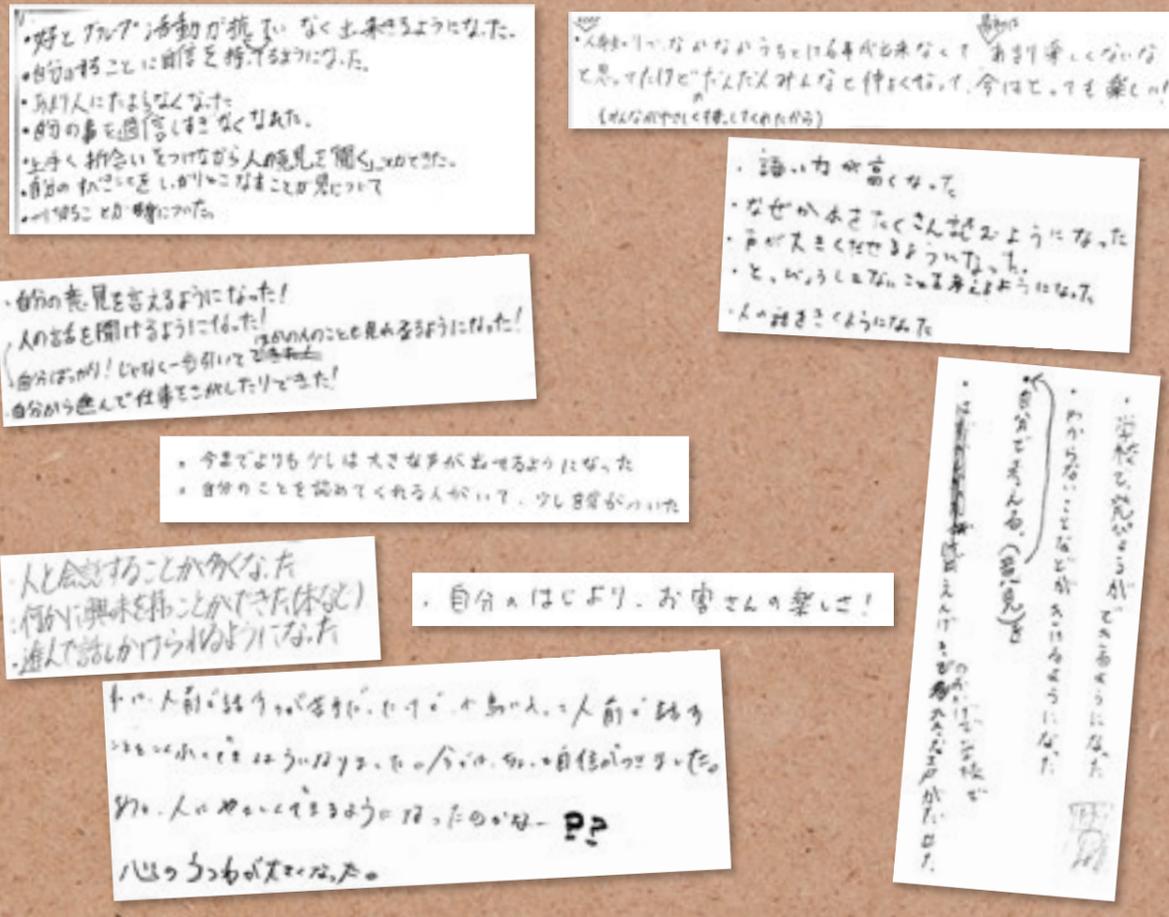
保護者にも、事業の継続について意見を求めた。保護者から出たさまざまな問題提起や思いに子どもたちは触

れ、自分たちとは異なった考えや思いもよらない視点があることに驚いていた。保護者の立場になって話し合うというロールプレイを行い、立場や意見が異なる人を、想像力を持って理解しようと努めた。

上演前後の観客移動式プレゼンは、目の前の子どもたちに観客が注目しやすくなり「子どもたちをととも身近に感じることができて大変よい」と好評だった。作品上演だけでなく、自分たちでプレゼン構成を考え、自らの成長を語り、やってきたことを自分の言葉で紹介する姿が本当に頼もしく、回を重ねるごとに自信にもつながったようだった。上演もすばらしかったが、結果だけでなく、子どもたちがどんなふうに悩みぶつかりがんばってきたかという過程を、しっかり観客に届けられたことが何よりうれしかった。

事業担当 中川玲奈

## 受講生が自分の成長についてどう感じているか (プレゼンテーションするための下書きより抜粋)



## 資料1 受講生内訳と観客動員数の推移

### 【ポイント1】

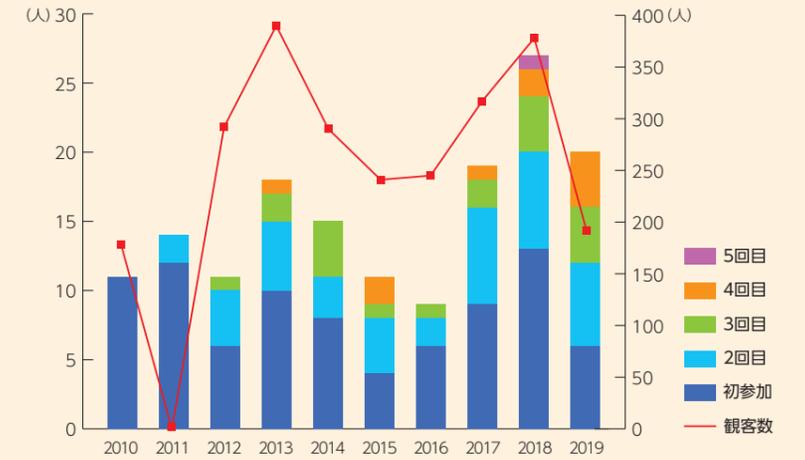
3年目以降のリピーター率の高さが顕著である。

※20名定員に対し、2018年度は経験者の力を生かそうと、定員超過の27名で実施した。2019年度はより濃い学びを目指し、20名定員とするため、26名の応募者に対し抽選を行った。

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
初参加	11	12	6	10	8	4	6	9	13	6
2回目	0	2	4	5	3	4	2	7	7	6
3回目	0	0	1	2	4	1	1	2	4	4
4回目	0	0	0	1	0	2	0	1	2	4
5回目	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
受講者数	11	14	11	18	15	11	9	19	27	20
リピーター率	0%	14%	45%	47%	47%	64%	33%	53%	52%	70%
観客数	178	0	292	390	290	241	245	317	378	192

### 【ポイント2】

観客者数について。2011年は夏休み短期企画にし、発表公演なしとした。3年目以降、毎回200人を超える観客を動員。2019年度の発表ではコロナ対策のために客席数を半数に減らすという工夫を行ったため、一見観客数が減少して見えるが、実際の客席占有率は96%と前年の94.5%をさらに上回る。



## 資料2 公演後のアンケートの感想欄

### 【ポイント】

公演後のアンケート用紙に感想を記入した人たちの中で数が突出しているのは、10歳未満と10代、そして40代である。これは、小鳥の学校の募集対象の世代と、その親世代であると考えられる。親世代からは、子どもの成長を実感しそれを頼もしく思う感想

が多くみられた。また10歳未満や10代からは、半数以上が公演や活動について好印象を持ったことがはっきり書かれており、ぜひ参加してみたいという意欲を記しているものも複数ある。

アンケート数 (年代別)	10歳未満・10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	記入なし
	16	5	3	18	7	2	1	5

### ★10歳未満・10代

- 「楽しいげきが見れてよかったので、5年生になってからはいりたいと思います。」
- 「去年は小鳥に参加していたので、改めて、「この場所いいな」と感じました。知っている子ども分からない子もいたけど、みなさんの熱演がとてすばらしく、プレゼンも「なるほど!」と感じることができて、とてもよかったです。明日もがんばってください。」
- 「みんな、協力でできていて、表現力がよくて、分りやすい、げきでした。王さまの歩きかたのくふうがすごかったです。」
- 「とても元気の出る劇をありがとうございました。昨年よりさらに成長している方や、新たに入り、活躍している方、とても見ごたえがありました。細かなところまで作りこまれていて、どこを見てもおもしろかったです。おつかれさまでした!!」
- 「教科書にのっているお話を台本化して演じていて、観ていて楽しかった。それぞれ一人一人の個性が芝居に生きていて良かったです。面白かったです。」
- 「来年入りたいです。」
- 「自分よりも表現が上手ですごかったです。」
- 「とてもおもしろくて声のでてたなどおもしろかったです。またいねんもがんばってください。」
- 「おもしろかったです。みんなでぎょうかしあっていて、すごとおもしろかったです。」
- 「観客が200人から100人になったけど、人のまえて大きな声をだして、げきをしていてすごかった。私もあんなふうにかっこよくなりたいです。」

### ★40代

- 「県に一個くらいこのような場所、場面があってもいいかと思います。中学生は頼りになりますね。堂々としていました。王子いいね!!」
- 「とても楽しませていただきました。今回は子どもたちが自分の言葉で話をする時間が多く、話をする様子を見て、頼もしく感じました。また、人が集まる時間や集団を小さくする工夫も素晴らしいと思います。子どもたちのために真剣に考えて下さってありがとうございました。」
- 「〇の父です。小5から四年間にわたり、小鳥の学校に参加させていただきありがとうございました。演劇を通して経験させていただいたことは、子どもの成長にとってかけがえのない時間だったと思います。今春から高校生になりますが、部活では「演劇部」を選ぶとのことで、小鳥の学校の経験が活かされればと思っています。本当にありがとうございました。」
- 「娘が入校してから大変お世話になりました。今日、公演できたこと、とてもうれしく思います。今日一日、みんなの発表、言葉を見たり聞いたりして、たくさんのお話を学んで、みんなで成長してきたんだなあ、と実感しました。表現の仕方もそれぞれ個性があって、笑いながら見せていただきました。ストーリー音楽、衣装など、とても工夫されていて、すばらしかったです。明日で最後になりますが、精一杯がんばってほしいです。本当にありがとうございました。」

## 高校演劇もっと盛り上げ事業「つくる高校生」

鳥の劇場で高校生とプロの演出家が演劇・舞台作品を一緒につくる取り組みです。作品づくりを通して自ら考え創作する力の向上を目標としています。様々な高校からの参加による活発な交流を企画し、前期は作品の創作と韓国との交流、後期は音響についての短期間集中講座を行いました。

### 前期 『友達』の創作と日韓高校生交流事業

【期間】6月1日(土)～8月11日(日) 【実施】43日(稽古37回) 受講者数11人

京都の俳優・二口大学氏を演出家として招き、安部公房の名作戯曲「友達」の創作に取り組みました。社会の冷たい面を描いたブラックコメディです。難しいテーマに悩む場面も多くありましたが、学年も学校もバラバラな中、話し合いを多く持ち、共に芝居をつくる仲として団結感を強めて行きました。

今年で3年目となった韓国・安山市の高校生との交流事業は、日韓の政治情勢の緊張の中、鳥取での交流は叶いませんでした。しかし、安山市での交流は実施でき、個々人の繋がりの大切さを実感できる貴重な機会となりました。

### 発表公演『友達』 上演4回／アフタートーク1回

・プログラム来場者数計 204人  
・アフタートーク参加者数計 56人

■作／安部公房  
■演出／二口大学  
■出演／「つくる高校生」19年度前期受講生:米谷静来 船越涼花 田中千尋  
岩森太生 中野藍 宇田川真緒 三戸彩世 岡本那々華 出口彩華  
梶川真奈 本田宏 山本理梨(「つくる高校生」OG)



### 『友達』鳥取公演 会場:鳥の劇場

7月28日(日) 来場者数77人 (アフタートーク参加者数56人)

■スタッフ／舞台監督:田中陽一郎[アドセンターフジ] 照明:川島玲子 音響・編曲:原伸弘[オハラ企画]  
■美術:川上明子 衣装:安田菜耶 演出助手:大川潤子 山本理梨(「つくる高校生」OG)  
■韓国語字幕翻訳:田川智子 英語字幕協力:増川智子 字幕作成:日本語英語字幕操作:安田菜耶  
■韓国語字幕操作:松本智彦 大道具:赤羽三郎 生田正 制作:鳥の劇場



### 『友達』韓国公演 会場:安山文化芸術の殿堂 ビヨルムリ劇場(韓国・安山市)

8月9日(金)・10日(土) (上演3回) 来場者数計127人

■スタッフ／舞台監督:田中陽一郎[アドセンターフジ] 照明:川島玲子 音響:原伸弘[オハラ企画]  
■字幕翻訳:田川智子 チェ・ヒョンミ[劇団コルバン] 制作:松本智彦 浜田連珠

【助成】公益信託とりぎん青い鳥基金 公益財団法人鳥取県国際交流財団山陰・夢みなと博覧会記念基金助成事業



## 韓国との高校生と鳥取の高校生が演劇を通じて交流する2日間

### 鳥の劇場での演劇ワークショップ 会場:鳥の劇場

7月27日(土) 参加者数31人 ■進行／二口大学 韓国の劇団ソング

予定していた日韓の高校生同士の交流は叶いませんでしたが、韓国の劇団ソングの演出家・脚本家の二人を講師として迎えた事で、日韓の交流ワークショップが実現しました。参加したのは、鳥の劇場が実施している「つくる高校生」のメンバーに加え、募集で集まった演劇・韓国に興味のある鳥取県内の高校生たち、さらに同時期に鳥取県が取り組んでいた「鳥取県・江原道友好提携25周年記念事業」とも提携し、鳥取大学・鳥取環境大学の学生たちも交えての交流となりました。



### 韓国での演劇ワークショップ 会場:安山市文化芸術の殿堂内 トレーニングルーム(韓国・安山市)

8月7日(水) 参加者数30人 ■進行／韓国の劇団コルバン

鳥取メンバーが安山市に到着した翌日、鳥取の高校生とコダウンのメンバーが演劇のワークショップを通じて交流しました。講師はコルバンのチェヒョンミさん。日本と韓国の高校生が1人ずつペアになり、お互いの名前を韓国語でどう書くかを教え合うことから始まり、その後は身体を使うワークショップを中心に行いました。



【助成】公益信託とりぎん青い鳥基金 公益財団法人鳥取県国際交流財団山陰・夢みなと博覧会記念基金助成事業

## 日韓高校生交流事業安山公演報告会

8月25日(日) 参加者数36人 会場:鳥の劇場

韓国での公演やワークショップの体験を通して何を感じたか、高校生が自分の言葉で語ってくれました。



### 後期 春休み三日間集中講座 芝居の中の音楽を考える

【期間】2020年3月27日(金)～29日(日) 【実施】3日 受講者数10人 会場:鳥の劇場

■講師／中島諒人 齊藤頼陽 大川潤子 原伸弘[オハラ企画]

芝居における音響の使い方を学ぶ講座を行いました。映画での音響の使い方をみてる事から始まり、戯曲の読み解き方の講座、その後2グループに分かれて芝居に実際に音楽・SE(Sound Effect:音響効果)をつけていきました。感覚だけで音楽・SEを選ぶのではなく、論理的な戯曲読解に基づいて音響を選ぶことの大事さを学んでくれました。



### 高校生と一緒に名作戯曲を読む

【実施】2回 参加者数計15人

会場:ギャラリー鳥たちのいえ

■講師／中島諒人

第一回 フェルナンド・アラバル著「戦場のピクニック」

5月18日(土) 参加者数9人

第二回 ベルトルト・ブレヒト著「例外と原則」

6月15日(土) 参加者数6人



## 劇場で働く人たちを知る

【実施】1回(8月10日(土)) 参加者数4人 会場:鳥の劇場

小学4年生から中学3年生を対象に、劇場について知ってもらい、劇場を少しでも身近に感じてもらえるよう取り組んでいる事業です。2019年度は、劇場で働く様々な役職の人の紹介や、参加者による働く人へのインタビューなどを行い、劇場の役割を参加者と一緒に考える機会としました。



## 余越保子滞在制作・ダンスワークショップ 【鳥の劇場滞在制作プログラム】

【期間】6月26日(木)～7月7日(日) 【実施】12日 滞在アーティスト7人 会場:鳥の劇場

京都を拠点に活動する振付家の余越保子氏の滞在制作を行いました。滞在制作を経て完成した作品『shuffleyamamba』は鳥の演劇祭12で上演され、2020年にはニューヨークでの上演を予定しています。またダンサーによるダンスワークショップや、余越氏による作品創作ワークショップを一般の方に向けて開催しました。

### コミュニティーダンサーのためのワークショップ「ダンスワークショップ」

6月29日(土) 開催1回 参加者数9人

### コミュニティーダンサーのためのワークショップ「クリエイションワークショップ」

6月30日(日) 開催1回 参加者数3人

### 発表公演『shuffleyamamba』

7月7日(日) 上演1回 来場者数43人

(アフタートーク参加者数39人)

※鳥の演劇祭12公演情報はp21に記載



## 2019年度「つくる高校生」を振り返って

つくる高校生は2017年から「日韓高校生交流事業」という、韓国の高校生たちと交流する取り組みを合わせて行なっています。夏休みを利用して、韓国の高校生が鳥取に、鳥取の高校生が韓国に行き、それぞれ作品発表だったり一緒に表現ワークショップをしたりして交流を深める事業です。

この事業には、毎年決まって参加してくれる子がいたり、実施後も韓国の高校生と個人的にやり取りをしている子がいたりします。10人ちょっとの少人数の事業ですが、その分深く濃密な関係が築ける良い取り組みと感じています。

しかし、2019年度はその交流を実現するまでに、ある困難がありました。日韓関係の政治的緊張です。

太平洋戦争時の元徴用工問題を巡る判決、日本から韓国への輸出管理強化などにより、7～8月にかけて日韓、国同士の緊張が一気に高まりました。それに伴い、人々の意識としても韓国-日本間の移動自体が非難される雰囲気が出てきました。

緊張が高まり始めた7月当初は、高校生たちもスタッフも、「自分たちに影響はないだろう」という感覚だったように思います。実際韓国側とも連絡を問題なく出来ており、また日韓どちらのチームにも「このような草の根事業は、こんな状況だからこそ実施されなければいけない」という思いもありました。

しかし、韓国の高校生の来日予定日の3日前、韓国側から「鳥取派遣の中止を含めて実施内容を協議している」という旨の連絡がありました。「安山市として公費を使って日韓交流事業を行うことは、市民の同意が得づらいと思われる」という懸念が出たためです。

結局、韓国の高校生の鳥取派遣は取り止めるとの連絡がありました。ただ同時に「鳥取の高校生の韓国派遣は全力でサポートする」とも言ってくれました。

ですがそう言ったところで鳥取の高校生たちや、その家族の皆さんの感情もあります。当然その中には韓国行きを不安に思う方もいます。無理に韓国に連れて行くことはできません。しかし、お芝居は誰かが急遽代役で入ることも難しいものです。ましてや今回は掛け合いが大事なお芝居。できれば、全員が集中して作り上げたものをそのまま韓国の皆さんにお届けしたい…。不安な人を無理に参加はさせられない…。でもできれば全員で行きたい…。スタッフチームは、この気持ちの板挟みでした。

そんなタイミングで、韓国から一本のビデオレターが。それは、韓国の高校生が鳥取に来ることは叶わなかったけれども、何か少しでも交流が出来たらと、鳥の劇場から韓国にお願いして急遽撮ってもらったものでした。

そのビデオでは韓国の高校生たちが、日本に行けなくなった悔しさや、韓国で会えることを心待ちにしています、といった想いを一人一人の言葉で優しく、熱く語ってくれていました。何より、そこには照れたり、カッコつけたり、ちょっと笑いを狙ってみたり、日本の高校生と変わらない姿が映っていました。

そのビデオを高校生たちと一緒に観た時、不安を感じていた人たちが「不安だけど、行きたい」と言ってくれました。「韓国に行く」という感覚ではなく、「韓国にいるこの人たちに会いに行く、作品を届ける」と感覚がシフトしたようです。こうして、全員で韓国に行けることになりました。

実際、韓国で嫌な場面に遭遇することは一度としてなく、むしろどんな方からも情を持って接して頂きました。特に、韓国の受け入れチームが、高校生たちが嫌日的な感情に晒されないよう、最大限に尊重し気を使ってくれました。町に出る時も、食事に行く時も、作品を上演する時も、こちらの意図を汲み取ってくれ、高校生たちが楽しく過ごせるように心を配ってくれました。言葉が通じず混乱する時もしばしばありましたが、そこにはお互いに理解したいという気持ちに満ちていました。

2019年度はこの緊張のある中で交流事業を実施できたことで、逆説的にですが、日韓の繋がりやの強さ、そして個人と個人が思いで繋がるのがいかに大事か、強く感じられる年になりました。

この経験が、高校生たちにとって思い出した時に勇気もらえるものになっていれればと思います。

事業担当 浜田連珠



## 若手演劇人の成長サポート

## 若手演劇人の作品向上、社会との関係づくり支援事業

[鳥の劇場滞在制作プログラム]

### 前期 滞在制作・試演・研修発表

[期間]7月1日(月)～7日(日) [実施]7日 滞在アーティスト6人(わが街の小劇場〈沖縄・那覇〉)

沖縄県で「わが街の小劇場」を運営し、地元の俳優たちとの作品創作・発表を精力的に行っている演出家・福永武史氏を招き、滞在制作、7月に試演を行いました。研修では福永氏が運営する「わが街の小劇場」が抱えている課題や地域の実情を踏まえ、今後の事業展開に関してより具体的に議論を行い、最終日には試演会終了後に観客の前で研修成果を発表しました。さらに、試演した作品をブラッシュアップしてもらい、10月「鳥の演劇祭12」にて上演しました。

[研修内容]  
7月1日(月) 「鳥の劇場」活動紹介(講師:松本智彦)  
7月2日(火) 「わが街の小劇場」活動紹介  
7月3日(水) 「百景社」活動紹介(講師:百景社主宰 志賀亮史)  
7月4日(木) 「じゆう劇場」稽古見学  
7月5日(金)・6日(土) 研修発表の内容を考える



### 発表公演 近代能楽集より『弱法師』

7月7日(日) 上演1回 来場者数51人(アフタートーク参加者数46人)

※鳥の演劇祭12公演情報はp21に記載

### 若手演劇人研修事業成果発表

7月7日(日) 開催1回 参加者数46人



### 後期 研修発表

[期間]10月30日(水)～11月4日(月)

[実施]6日 研修生5人(公募で集まった若手演劇人)

利賀演劇人コンクール、こまばアゴラ劇場のネットワークによって全国の若手演劇人に対して公募を行い研修生を募集しました。研修参加者は鳥の演劇祭が開催されている鹿野町に6日間滞在し、劇場運営や演劇祭運営についての講義を受けながら実際に演劇祭のプログラムを鑑賞したり、ボランティアスタッフとして運営に関わりながら観客とのコミュニケーションを行いました。講義では劇場運営の実践者として鳥の劇場の中島諒人、京都劇研の杉山準氏、若手の実践者としてlibidoの岩澤哲野氏、アートマネジメント研究者として鳥取大学教授の五島朋子氏が登壇し、研修生はそれぞれの地域における実践や抱えている課題などを学びました。

[研修内容]  
10月30日(水) 鳥の劇場の事業紹介、演劇祭の事業紹介(講師:中島諒人 松本智彦)  
10月31日(木) theater apartment complex libidoの活動紹介(講師:岩澤哲野)  
11月1日(金) 鳥の劇場の活動の効果、宮崎県「まちドラ」事例紹介、世界の演劇祭について(講師:五島朋子) / 京都劇研の事業紹介、シニア劇団の取り組みについて(講師:杉山準)  
11月2日(土)・3日(日) 鳥の演劇祭観劇及び演劇祭ボランティアスタッフ体験  
11月4日(月) 研修成果発表





# BeSeTo演劇祭 26+ 鳥の演劇祭 12

BeSeTo THATRE FESTIVAL 26+ "BIRD" THEATRE FESTIVAL TOTTORI 12

## 観る・体験する・関わる、ともに未来!

[期間]10月24日(木)~11月17日(日)

[上演会場]鳥の劇場・鹿野往来交流館「童里夢」・議場劇場・鹿野町総合福祉センター・旧小鷲河小学校体育館

[その他会場]子育て支援センター「カンガルー」・けたかくるりこども食堂・しかの宿 山根町・山根邸2(旧山根洋裁店)・山口邸・パン心庵・光輪寺

[実施]13日 上演プログラム24演目・50回／アフタートーク24回／上演以外18事業・94回

BeSeTo演劇祭26+鳥の演劇祭12総来場者数(延べ)7,341人 ※ナイトイベント等をのぞく

- ・BeSeTo演劇祭26+鳥の演劇祭12プログラム来場者数計3,739人
- ・アフタートーク参加者数計898人
- ・週末だけのまちのみせ来場者数計2,704人

(期間中の鹿野への総来場者数(延べ)14,337人)

2019年度の演劇祭は、鳥の演劇祭の12回目とBeSeTo演劇祭(日本・中国・韓国の演劇人が1994年に立ち上げ、以来三ヶ国持ち回りで継続開催し、日本開催については2016年より鳥取を主催地としている)の26回目の一体開催となりました。

上演会場は【鳥の劇場】、【議場劇場】(鹿野町総合支所内)、【鹿野往来交流館「童里夢」】、【鹿野町総合福祉センター】、【旧小鷲河小学校体育館】の5ヶ所。日本13、中国3、韓国4、日中韓三ヶ国共同1、フランス／イスラエル1、フィンランド1の計23作品を4週末で上演。演劇だけでなくダンスや人形劇、障がいのある人の舞台作品、リーディング上演、シンポジウム、ワークショップなども併催しました。日中韓三ヶ国の大学生によるシンポジウムでは、互いの作品を観劇し合っ感じたこと、演劇に対する考え・思いなどの意見交換と交流を行い、「産み育てを考えるワークショップ」「親子演劇ワークショップ 記憶のアーカイブ 74年前に負けた戦争のこと」では、演劇の表現を切り口に、社会が直面する問題へのアプローチも試みました。併せて、いんしゅう鹿野まちづくり協議会による「週末だけのまちのみせ」(鹿野町の城下町エリアの空き家などに、地元食材を使った飲食店・雑貨店・ギャラリーが出店されるイベント)に、鳥の劇場のレポート作品にちなんだテーマハウスの出店を行ったり、「とっとり体験プログラム」(鳥取の魅力を楽しめる場所・食・人の体験プログラム)も実施し、参加した方々が演劇だけでなく鹿野や鳥取を楽しめる機会も設けました。また夜まで演



劇祭を堪能してもらえよう、テント宿泊(グランピング)の用意や、ナイトイベント、パーティーを実施しました。そしてより多くの人にプログラムを楽しんでもらうため、上演時の日本語/英語字幕と通訳及び手話通訳や、鳥取駅・浜村駅・各会場をまわる無料の循環バスの運行を行いました。大規模なイベントでもあったことから、運営を補助するボランティアスタッフの参加も広く呼びかけ、昨年の9人を大きく上回る30人の参加がありました。

今回の演劇祭は非常に多くの演目、そして充実した周辺プログラムにより、地元にも根ざしつつ世界ともつながる賑やかで魅力あふれるものとなりました。

### ■BeSeTo演劇祭26

- 【主催】日本BeSeTo委員会
- 公益財団法人舞台芸術財団演劇人会議
- 【共催】鳥の劇場運営委員会 鳥取県 鳥取市
- 【助成】文化庁文化芸術振興費補助金(国際芸術交流支援事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

### ■鳥の演劇祭12

- 【主催】鳥の劇場運営委員会
- 【共催】鳥取県 鳥取市
- 【助成】2019年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

### 【後援】鳥取県教育委員会 鳥取市教育委員会 米子市教育委員会 境港市教育委員会

- 倉吉市教育委員会 大仙町教育委員会 南部町教育委員会 伯耆町教育委員会 日吉津村教育委員会 日南町教育委員会 日野町教育委員会 江府町教育委員会 岩美町教育委員会 若桜町教育委員会 智頭町教育委員会 八頭町教育委員会 三朝町教育委員会 湯梨浜町教育委員会 琴浦町教育委員会 北米町教育委員会 新日本海新聞社 朝日新聞鳥取総局 山陰中央新報社 毎日新聞鳥取支局 読売新聞鳥取支局 産経新聞社 日本経済新聞社 鳥取支局 中国新聞鳥取支局 NHK鳥取放送局 日本海テレビ BSS山陰放送 TSK山陰中央テレビ 共同通信社鳥取支局 日本海ケーブルネットワーク FM鳥取・RADIO BIRD 米子市観光協会 鳥取県PTA協議会 いなびょんびょんネット エフエム山陰 公益財団法人鳥取県文化振興財団

[第1週 10月24日(木)~27日(日)]

- 『班女』 鳥の劇場(鳥取) ※演劇 上演4回 来場者数計149人 (アフタートーク2回 参加者数計21人)
- 『葵上』 鳥の劇場(鳥取) ※演劇 上演4回 来場者数計186人 (アフタートーク2回 参加者数計35人)
- 『授業』 百景社(茨城) ※演劇 上演2回 来場者数計99人 (アフタートーク1回 参加者数58人)
- 『蟬細工の思い出』 北京演芸専修学院(中国) ※舞踊劇 上演2回 来場者数計80人 (アフタートーク1回 参加者数26人)
- 『弱法師』 わが街の小劇場(沖縄) ※演劇 上演2回 来場者数計57人 (アフタートーク1回 参加者数31人)
- 『アンドロギュノスの憂鬱2019』 劇団くらっぶ(奈良) ※演劇 上演2回 来場者数計46人 (アフタートーク2回 参加者数計43人)

[第2週 11月2日(土)~4日(月・休)]

- 『パンソリ「オセロ」』 アジア文化センター/Heebie Jeebie Juice(韓国) ※演劇 上演2回 来場者数計201人 (アフタートーク1回 参加者数65人)
- 〔演劇を通じた三ヶ国の学生の交流〕
  - ◇『爪』 韓国芸術総合学校 演劇院(韓国) ※演劇 上演2回 来場者数計76人 (アフタートーク1回 参加者数20人)
  - ◇『雷雨』 中央戯劇学院(中国) ※演劇 上演2回 来場者数計62人 (アフタートーク1回 参加者数25人)
  - ◇『舞姫』 四国学院大学 身体表現と舞台芸術マネジメントメジャー(香川) ※演劇 上演2回 来場者数計79人 (アフタートーク2回 参加者数計72人)
- シンポジウム「東アジアでみる演劇の夢」 ファシリテーター:山本芳郎[山の手事情社] 開催1回 参加者数42人
- 『shuffleyamamba』 余越保子(京都) ※ダンス 上演2回 来場者数計134人 (アフタートーク1回 参加者数66人)
- 『どろぼうがっこう』 鳥の劇場(鳥取) ※野外演劇 上演1回 来場者数334人
- おとなな劇場リーディング上演『女殺油地獄』 おとなな劇場(鳥取) ※朗読劇 上演1回 来場者数32人 (アフタートーク参加者数15人)
- 親子演劇ワークショップ「記憶のアーカイブ 74年前に負けた戦争のこと」 講師:中島諒人 開催1回 参加者数16人



[第3週 11月9日(土)～10日(日)]

- 『Mirroring Memories-それは尊き光のごとく』 Noism1(新潟) ※ダンス 上演2回 来場者数計185人 (アフタートーク1回 参加者数計100人)
- 『原野』 上海ドラマ芸術センター(中国) ※演劇 上演2回 来場者数計107人
- 『記憶の場所』 普遍的劇団(韓国) ※演劇 上演2回 来場者数計97人 (アフタートーク1回 参加者数26人)
- 『芥川龍之介をめぐる3つの小作品』 日中韓三ヶ国国際共同製作 ※演劇 上演2回 来場者数計82人 (アフタートーク1回 参加者数20人)
  - ◇『眠らない方法』(原案:『河童』)
  - ◇『地獄変』
  - ◇『闇中間答』
- 『赤とんぼよ 永遠に ～露風の母 碧川かた物語～』 露風の母物語実行委員会(兵庫) ※演劇 上演2回 来場者数計174人
- 鹿野タイムスリップツアー『昇太の赤とんぼ』 鳥の劇場(鳥取) ※回遊演劇 上演2回 来場者数計206人

[第4週 11月16日(土)～17日(日)]

- 『手のない花嫁』 アートステージ・サン(韓国) ※演劇 上演2回 来場者数計139人 (アフタートーク1回 参加者数50人)
- 『H2-Hebron』 ウィンターファミリー(フランス/イスラエル) ※ドキュメンタリー演劇 上演2回 来場者数計140人
- 『全世界を見たいと夢みた男』 イダ・ヴァンタヤ(フィンランド) ※人形劇 上演2回 来場者数計151人 (アフタートーク1回 参加者数55人)
- 『本当のとりっと』 とりっとダンス×Clco(鳥取/鹿児島) ※ダンス 上演2回 来場者数計80人 (アフタートーク1回 参加者数18人)
- 『「マクベス」からさまよい出たもの』 じゆう劇場(鳥取) ※演劇 上演2回 来場者数計223人 (アフタートーク1回 参加者数101人)
- NY・クイーンズシアターの社会とつながるための試み ロブ・ウルビナーティ(NY)/鳥の劇場(鳥取) ※劇場事例紹介と朗読劇(2作品)
  - リーディング作品:『いつまでも愛を誓う』・『ぼくらはすごい赤ちゃんをつくるんだ』 開催1回 来場者数76人 (アフタートーク参加者数51人)



[その他のプログラム]

- 産み育てを考えるワークショップ 進行:阿部初美 開催8回 参加者数計77人
- 「みんなでGO! 合作5・7・GO!」 進行:西浦小鹿 開催4回 参加者数計18人
- 写真企画「小鳥の家族」 撮影:写真家 水本俊也 開催12回 参加者数計39人(撮影家族10組)
- 小学校の学習発表会をのぞいてみよう 開催2回
  - ◇鳥取市立鹿野学園文化祭
  - ◇鳥取市立逢坂小学校学習発表会
- 鹿野ぶらぶら町歩き 開催3回 参加者数計17人
- パーティー 開催3回 参加者数計325人
  - ◇オープニングパーティー(参加者数125人)
  - ◇ウェルカムパーティー(参加者数121人)
  - ◇クロージングパーティー(参加者数79人)
- ナイトイベント:屋台村・鹿野祭映像上映・花園夜市ミニコンサート・星空観望・語り部による民話を聞く会 開催2日
- グランピング 参加者数計4人(4組)
- とっとり体験プログラム
  - ◇鳥取の民藝、知ろう、体験しよう、味わおう 開催1回 参加者数3人
  - ◇日本一危険な国宝「投入堂」にチャレンジ 開催1回 参加者数3人
  - ◇城下町鹿野のテクテクお寺めぐり ※申込み無し開催せず
  - ◇旬の松葉ガニと造り手の思いのこもった地酒を味わおう ※申込み無し開催せず
- 鳥のカフェ 開催9日
- 鳥の演劇祭セレクトショップ 開催11日
- 〔週末だけのまちのみせ8th〕
  - ◇BeSeToカフェ ※日中韓三ヶ国メニュー 開催9日 来場者数計49人
  - ◇喫茶 白雪 ※『白雪姫』公演の展示カフェ 開催9日 来場者数計90人
  - ◇トリゲキハウス ※鳥の劇場作品紹介(上演時写真・映像・小道具・衣装等展示) 開催9日 来場者数計740人
  - ◇写真展「因州和紙×水本俊也」 開催5日 来場者数計125人
  - ◇山陰三ツ星マーケット 開催3日 来場者数計1,700人





葵上



蝉細工の思い出



shuffleyamamba



どろぼうがっそう



授業



弱法師



パンソリ「オセロ」



原野

# BeSeTo演劇祭26



# 鳥の演劇祭12



舞姫



爪



全世界を見たいと夢みた男



「マクベス」からさまい出たもの



アンドロギュノスの憂鬱2019



雷雨



とりっとダンス



NY・クイーンズシアター



【期間】4月5日(金)～2020年1月25日(土) 【実施】61日(短編稽古12回／新作稽古38回) 参加者数14人

じゆう劇場は鳥の劇場のプロデュースのもと、2013年8月に活動を開始したプロジェクトです。障がいのある人、ない人がいっしょに舞台を作り、日常生活では隠れがちなそれぞれの豊かさを発見し、その素晴らしさを観客と分かち合うことを目指します。今年で8年目の活動になります。今年には障がいのない方2名を含めて総勢14名(鳥の劇場を除く)となりました(うち10名は昨年からの継続参加)。

短編作品は昨年度県内5ヶ所で上演したものを再構築、再演しました。東部中部西部それぞれで一般の観客に向けた上演をすることを基本としながら、高校で人件学習授業の一環としての上演も行いました。また、ジャパン×タイプロジェクトの一環として、タイバンコクを中心に位置するBACCでの上演を行いました。セリフの一部をタイ語に変え観客との距離を縮めながら作品の内容を十分に伝えることが出来た公演でした。

そして、2019年度は3年ぶりの新作を創作し、県内2ヶ所で公演を行いました。演劇は協働的な芸術であり、参加者相互の信頼と深い関わり合いが必要とされます。じゆう劇場は、障がいの有無を超えて演劇としておもしろい作品をつくることを一つの目標としています。またあわせて、我々が築かなければならない共生社会を先取りした風景を舞台上に提示することを目指しています。

【主催】鳥の劇場運営委員会  
【協力】鳥取県  
【助成】平成30年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業



### 【短編作品上演】

上演7回／アフタートーク7回

・プログラム来場者数計542人  
・アフタートーク参加者数計479人

■構成・演出／中島諒人  
■翻訳／増川智子  
■スタッフ／衣装:安田菜耶 音響・照明:生田正  
字幕:安田菜耶 字幕操作:越後綾音 制作:鳥の劇場

### 『いらっしゃいませ、ウォルマートへ』

■脚本／サムエル・ハンター  
■出演／島田ひかる 齊藤頼陽 高橋等 安田菜耶



### 『たぶん、朝食の後に』

■脚本／ベガ・ブランステッター  
■出演／井谷優太 大川潤子



〈倉吉公演〉 会場:鳥取看護大学・鳥取短期大学 A館1階ホール  
5月10日(金) 来場者数141人 (アフタートーク参加者数130人)

〈米子公演〉 会場:手話カフェSign  
5月12日(日) 来場者数25人 (アフタートーク参加者数23人)

〈鳥取公演〉 会場:鳥取大学芸術文化センター アートプラザ  
5月14日(火) 来場者数91人 (アフタートーク参加者数85人)

〈学校訪問公演〉  
5月17日(金) 鳥取県立倉吉東高等学校定時制  
観劇人数25人(アフタートーク参加者数25人)  
5月18日(土) 湯梨浜学園中学校・高等学校  
観劇人数160人(アフタートーク参加者数160人)

〈海外公演〉 2019ジャパン×タイプロジェクト  
会場:バンコク芸術文化センター  
(Bangkok Art & Culture Centre)「BACC」  
(タイ・バンコク)  
9月28日(土)・29日(日) 来場者数計100人  
(アフタートーク2回 参加者数56人)



### 【新作公演】

上演4回／アフタートーク1回

・プログラム来場者数計494人  
・アフタートーク参加者数計101人

### 『「マクベス」からさまよい出たもの』 新作

■原作／W.シェイクスピア  
■【配役】台本／永山智行  
■構成・演出／中島諒人 齊藤頼陽  
■出演／石井優美 井谷優太 北村未菜 木山紅葉 國岡由佳梨  
島田ひかる 武内美津子 西垣伸子 福角幸子 福角宣弘 藤木  
恵子 三好眞二郎 山本英子 和田尚也 鳥の劇場:齊藤頼陽 高  
橋等 安田菜耶  
■スタッフ／舞台監督:三津久 照明:生田正 音響:大黒裕典[オハラ企  
画] 演出助手・衣装:安田菜耶 小道具製作・舞台美術:中垣直久  
木山紅葉 國岡由佳梨 進行補助:島田敬子 和田ひとみ 東久美  
子 制作:鳥の劇場 作曲・編曲:新倉健 井谷優太 演奏(録音):Pf  
渡邊芳恵 Vla 武中淳彦 英語字幕翻訳:原田武長 字幕作成:安田  
菜耶 字幕操作:越後綾音 浜田連珠

〈鳥取公演〉 会場:鹿野町総合福祉センター  
11月16日(土)・17日(日)  
※「BeSeTo演劇祭26+鳥の演劇祭12」のプログラムの一環として上演  
来場者数計223人 (アフタートーク1回 参加者数101人)

〈倉吉公演〉 会場:倉吉未来中心 小ホール  
2020年1月24日(金)・25日(土) 来場者数計271人



### 【演出ノートより】

シェイクスピアの「マクベス」から出発する本作は、マイノリティーと「権力」の関わりを見つめた作品です。

権力を求めるというと、名誉やお金を求める利益追求行為のように思われるかもしれませんが、権力があるという状態を、「社会的に能力が発揮できる場や機会が十分に与えられている」ことだと考えるなら、私たちの社会の現状では、障がいのある人には権力のない人がまだまだ多く、そういう人たちが力を獲得することは、個人にとって有益であるだけでなく、社会全体にとっても大きな意味があるはずなんです。

この舞台には、今までの作品同様に、いろんな人が出演します。知的障がい・肢体不自由・視覚障がい・精神障がいなど多様な障がいのある人たち、そして障がいのない人たち、それから鳥の劇場の俳優たちです。年齢も幅広く、中学生から60代まで。みなチームとして一丸になりながら、「マクベス」の物語を脱線も含めながら進めます。

そして後半では、劇作家・永山智行さんによるオリジナル短編戯曲「配役」が唐突にくっつけられます。パラリンピックの金メダリストの政治利用をめぐる権力闘争の物語です。日本の現政権へのアイロニーに満ちたこの短編は、序盤はブラックな政治風刺のように見えますが、やがて現代社会が抱える本質的で普遍的な課題を浮かび上がらせます。

「マクベス」と「配役」、そして出演者の経験に基づく生の言葉、これらのコラージュによる『「マクベス」からさまい出たもの』は、演劇作品として十分に楽しめるものになっていると思います。同時に、障がいのある人たちの自己実現について、そしてみんなの自己実現・豊かに生きることに、深く考えることのできる舞台にもなったと思っています。

演出家／鳥の劇場芸術監督 中島諒人

### 【展示】こんにちは! じゆう劇場です

期間:8月2日(金)～27日(火) 会場:鳥取県立人権ひろば21ふらっと 来場者数計281名

じゆう劇場の7年間の稽古や本番の写真をモニターで展示し、じゆう劇場のこれまでの歩みを紹介した。加えて2016年度のじゆう劇場の活動をまとめたドキュメンタリー映画「じゆう劇場の瞬き」を上映した。人権問題や共生社会に興味のある人が多く集まる施設でじゆう劇場の活動を周知できる貴重な機会となった。

### 【障がいのある人たちとつくる演劇について考える会】

1月24日(金)・25日(土) 会場:倉吉未来中心 セミナールーム9 参加者計21人 参加団体名:鳥根県民会館(鳥根) NPO法人ひゅーるぼん(広島) シアターTACOGURA(高知) リーディングアクト(米子) 鳥の劇場(鳥取) 鳥取県障がい福祉課(鳥取)

それぞれの団体の活動の現状や、抱えている問題、それぞれの活動の特性などを共有した。

# 04

## トリジユク

3年目のトリジユクでは、前の2年間で鳥の劇場が開発した、学校の授業と連携した「演劇を使ったワークショップメニュー」のブラッシュアップに力を注ぎました。

トリジユクは、鹿野学園で科目(表鷲科)が新設されることをきっかけに始まった事業です。鹿野学園全学年・鳥取県立青谷高校3年選択コースでの実践を経て、今後はさらに鳥取県の他の学校へと実践を広げていきたいと考えています。

【期間】5月21日(火)～2020年1月31日(金)

【対象】鳥取市立鹿野学園全学年・鳥取県立青谷高等学校地域環境芸術コース3年生

・鹿野学園 1年32人 2年26人 3年21人 4年35人 5年22人 6年20人 7年35人 8年22人 9年27人  
・青谷高校 31人

【会場】鳥取市立鹿野学園流沙川学舎・王舎城学舎 鳥取県立青谷高等学校

【実施】63日(109コマ) 参加者数(延べ)1,701人

【主催】鳥の劇場運営委員会 鳥取県 【共催】鳥取市 特定非営利活動法人鳥の劇場

【協力】青山学院大学社会情報学部附属社会情報学センター学習コミュニティデザイン研究ユニット NPO法人いんしゅう鹿野まちづくり協議会  
鳥取大学地域学部附属芸術文化センター 【教育アドバイザー】苅宿俊文(青山学院大学社会情報学部教授)



■「もじゃと小松の動画づくり授業～中学校での活動 約10年分～」  
もじゃ(映像作家・服部かつゆき)と小松(三朝町立三朝中学校教諭・小松亜希恵)のインタビュー映像とともに、生徒作品の視聴ができる3つのブースを設置し、展示期間のうち6日間は、体験できるワークショップを行いました。

ワークショップ講師:小松亜希恵 会場:ギャラリー鳥たちのいえ  
◇2020年3月21日(土)～4月5日(日) 展示来場者数計36人  
◇3/21(土),22(日),28(土),29(日),4/4(土),5(日)  
ワークショップ参加者数計8人

### 【トリジユク関連事業】

#### ■アートマネジメント講座2019

「アート系ワークショップの学校教育への導入と分析」

講師:苅宿俊文 鳥の劇場

会場:鳥取大学コミュニティ・デザイン・ラボ(CDL)

◇9月26日(木) 「アート系ワークショップを学校教育に」

参加者数40人

◇12月17日(火) 「アート系ワークショップをどのように分析するか」

参加者数38人

【主催】鳥取大学地域学部附属芸術文化センター

#### ■演劇ワークショップ「大人のためのトリジユク」

子ども達の生きる力を育む表現ワークショップ「トリジユク」の大人版です。アート系ワークショップを導入してみたい先生方や、どのような効果があるのか実際に体験してみたい方に向けて、2019年度から新たな取り組みとして開始しました。

講師:中島諒人 鳥の劇場俳優 会場:ギャラリー鳥たちのいえ

◇6月21日(金) 参加者数3人

◇10月4日(金) 参加者数2人

【助成】2019文化芸術地域モデル全国発信事業補助金 鳥取県



# 05

## 鳥の劇場以外での上演

### 【国内公演】

■9月5日(木)・6日(金)

第9回シアター・オリムピクス 『剣を鍛える話』

会場:富山県利賀芸術公園 岩舞台

上演2回 来場者数計268人



### 【海外公演】

■11月27日(水)・28日(木)

中国・大凉山国際演劇祭 『班女』/『葵上』

会場:中国・四川省西昌市凉山

上演4回 来場者数計1,260人



■12月3日(火)・4日(水)

フランス・ナント公演 『班女』/『葵上』

会場:Le Lieu Unique リュー・ユニック

上演4回 来場者数計458人

中国公演撮影/大凉山国際演劇祭





# アウトリーチ活動

## 教育・福祉現場等での講座・ワークショップ・読み聞かせ

- 保育園・幼稚園／美哉幼稚園ワークショップ、鳥取市立鹿野幼児センターこじか園読み聞かせ
- 小学校／鳥取市立逢坂小学校学習発表会支援(※)、鳥取市立鹿野学園流沙川学舎文化祭支援(※)、倉吉市立上北条小学校ワークショップ
- 中学校／鳥取市立鹿野学園王舎城学舎選択授業「演劇」コース講師(※)、鳥取市立気高中学校総合学習「生き方フォーラム」にて講話
- 特別支援学校／鳥取県立白兔養護学校表現ワークショップ(※)
- その他／読み聞かせグループ「さくらんぼ」(鳥取市鹿野町)、国立病院機構鳥取医療センター読み聞かせ(※)、岩美町中央公民館・町立図書館ワークショップ、アトスペースからふるワークショップ

(※)[地域に演劇力お届け事業]



## 専門性のアウトリーチ

- 鳥取県障がい者芸術・文化活動推進委員会令和元年度第1回推進会議／副芸術監督 齊藤頼陽 会場:鳥取県立図書館 5月15日(水)
- 第72回鳥取県東部地区高等学校演劇発表会 審査員／齊藤頼陽 会場:とりぎん文化会館 梨花ホール 6月1日(土)・2日(日)
- 利賀演劇人コンクール最終上演審査 審査員／中島諒人 会場:富山県利賀芸術公園 利賀山房 7月7日(日)
- 文化事業の特色ある企画ノウハウを学ぶ研修会 講師／芸術監督 中島諒人(コーディネート事業「市町村館支援事業」アドバイザー就任) 会場:富山県教育文化会館 7月25日(木)
- 令和元年度 3年目研修(小学校・義務教育学校) 講義及び演習「絆を深める人間関係づくり」 講師・指導助言／中島諒人 会場:倉吉市堂体育センター 7月30日(火)
- 鳥取大学公開講座ゼロイチ・アクセラレーション・プログラム「感性の時代へ。経営と美意識」 講師／中島諒人 会場:鳥取大学共通教育棟 10月5日(土)
- 日本重症心身障害福祉協会西日本施設協議会 講師／中島諒人 会場:ANAクラウンプラザホテル米子 11月15日(金)
- 鳥取県障がい者芸術・文化活動推進委員会令和元年度第2回推進会議／齊藤頼陽 会場:県庁議会棟 11月19日(火)
- 文化・経済フォーラム滋賀トップセミナー「文化芸術と地域の活性化ー共生社会の実現に向けてー」 講師／中島諒人 会場:滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 12月13日(金)
- 滋賀県社会福祉法人グロー障害のある人・ない人が共に演劇を体験するワークショップ 講師／中島諒人 会場:滋賀県立文化産業交流会館 12月14日(土)

## 小作品の上演

- 『アナンシと5』 会場:大山町中山温泉館 9月10日(火) 来場者数137人
- 国立病院機構鳥取医療センター来場観劇 『アナンシと5』 会場:鳥の劇場 9月19日(木) 来場者数17人
- 『アナンシと5』 会場:美哉幼稚園 10月7日(月) 来場者数142人
- 白兔養護学校訪問学級修学旅行来場観劇 『アナンシと5』 会場:鳥の劇場 10月8日(火) 来場者数19人
- 『どろぼうがっこう』 会場:岩美町中央公民館 町立図書館 12月21日(土) 来場者数212人



# その他の活動

## 【滞在制作】

- 余越保子作品 『shuffleyamamba』 期間:6月26日(木)～7月7日(日) [鳥の劇場滞在制作プログラム]
- 若手演劇人わが街の小劇場『弱法師』 期間:7月1日(月)～7日(日) [鳥の劇場滞在制作プログラム]
- CONTACT・インプロビゼーショングループClco 『本当のとおり』 期間:4月13日(土)～16日(火)・7月7日(日)～7月14日(日)・8月31日(土)～9月8日(日)・11月11日(月)～11月15日(金) [鳥の演劇祭12での滞在制作]
- 日中韓三ヶ国国際共同製作 『芥川龍之介をめぐる3つの小作品』 期間:10月23日(水)～11月10日(日) (BeSeTo演劇祭26での滞在制作)

## 【受託事業】

- 未来とつこわくく大作戦啓発フォーラム 会場:倉吉未来中心 8月3日(土) ◇上演『がまくんとかえるくん～あしたするよ～』・『アナンシと5』 来場者290人
- ◇ワークショップ「親子でいっしょに演劇をつくってみよう」 講師:中島諒人 参加者数31人



## 【客演】

- 映画「やまぶき」(脚本・監督:山崎樹一郎)／中垣直久 4月撮影
- 第36回鳥取市民合唱団定期演奏会第3ステージで朗読／齊藤頼陽 7月7日(日)
- 鳥取県立鳥取盲学校「音の絵本」コンサート／齊藤頼陽 中川玲奈 11月5日(火)

## 【大学連携】

- 鳥取大学授業 講師:中島諒人 4月15日(月)～8月5日(月) (15回)
- 鳥取大学「アートマネジメント論」 講師:中島諒人 6月18日(火)
- 鳥取短期大学授業 講師:齊藤頼陽 7月1日(月)
- 四国学院大学「身体表現と舞台芸術マネジメント・メジャー」 講師:中島諒人 9月21日(土)・22日(日)
- 北海道教育大学インターンシップ 10月27日(日)～11月10日(日) ※BeSeTo演劇祭26+鳥の演劇祭12にて実施 参加者数2人
- 関西学院大学授業「文化政策論」 講師:中島諒人 12月12日(木)
- 鳥取大学アートマネジメント講義 講師:松本智彦 2020年1月7日(火)

## 【インターン】

- 2019年度「国内専門家フェローシップ制度」(公益財団法人日本芸能実演家団体協議会)研修生受け入れ 期間:10月24日(木)～11月29日(金) 1人
- The Victorian College of the Arts Theatre School of The University of Melbourne 期間:2020年2月2日(日)～20日(木) 1人

## 【教育における劇場利用】

- 鳥取県立八頭高等学校校外学習支援(幼稚園の先生になりたい人へ読み聞かせ等アドバイス&WS) 8月5日(月) 来場者数6人
- 鳥取県立八頭高等学校フィールドワーク 9月15日(日) 来場者数5人
- 鳥取県立鳥取東高等学校「鳥取学」校外学習 10月10日(木) 来場者数44人
- 鳥取県立米子東高等学校「土曜活用事業」アートマネジメント講座 2月29日(土) 来場者数8人



## 【保育士の方のための演劇ワークショップ】

- 鳥取第五幼稚園ワークショップ 講師:齊藤頼陽 7月15日(月) 来場者数33人
- 蒜山夏季集中セミナー「身ぶり表現と劇づくり研修」保育士等キャリアアップ研修支援 講師:中島諒人 8月18日(日) 来場者数52人

## 【まちなかミニミニ映画館!】 会場:ギャラリー鳥たちのいえ

- 『ライク・サムワン・イン・ラブ』 5月17日(金)・18日(土) 来場者数計10人
- 『ワイルドツアー』 7月20日(土)・21日(日) 来場者数計6人
- 『フランス・ハ』 9月13日(金)・14日(土) 来場者数計12人
- ドキュメンタリー映画「未来をなぞる 写真家 島山直哉」 2020年1月17日(金)・18日(土) 来場者数計28人
- ドキュメンタリー映画「鳥の演劇祭」 3月24日(火)～28日(木) 来場者数計15人

## 【その他】

- 道の駅西いなば気楽里オープニングイベントチラシ作成協力 (オープニングイベント6月30日(日))
- サポーター報告会 7月20日(土) 来場者数27人
- 鳥取市尚徳大学鳥の劇場ツアー 9月18日(水) 来場者数47人
- 体験入団 期間:9月23日(月)～25日(水)・3月5日(木)～31日(火) 1人
- 日本海テレビ取材演劇体験ワークショップ 9月18日(水) ※10月5日(土)「スバイス!!」「芸術の秋コーナー」にて放送されました。
- 美保南区町区長OB鳥の劇場ツアー 10月19日(土) 来場者数30人
- アーティスト・イン・レジデンス／越後綾音 12月15日(日)～17日(火)
- 鳥の劇場ホームページリニューアルオープン 4月12日(金)
- 鳥の劇場 presents『トリラジ』 毎週土曜日16:30～17:00 RADIO BIRD FM鳥取(82.5fm)

## 【見学・視察訪問・ヒアリング調査】

- 個人での劇場見学／56人
  - しゃんしゃん祭り同好会のみなさん／17人
  - 岡山県立大学の学生の方々と先生／7人
  - 青山学院大学の学生の方々と先生／12人
  - 神戸の大学生の方々と先生／4人
  - 琉球大学視察訪問／11人
  - 宮崎県コンテンポラリーダンス団体「んまつーボス」視察訪問／3人
  - 独立行政法人日本芸術文化振興会(ヒアリング調査)／4人
  - 地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業に係る公演等調査(ヒアリング調査)／4人
- など 年間 計118人

鳥取市ボランティア・市民活動センター様より、トイレトペーパー・ゴミ袋・文具などを寄贈していただきました。ありがとうございました。

掲載記事



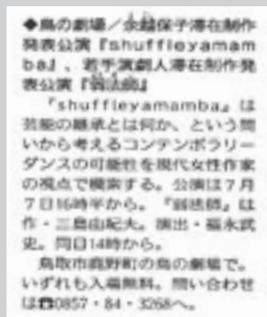
日本海新聞 2019年(平成31年)4月23日 火曜日



朝日新聞 2019年(平成31年) 4月26日 金曜日



毎日新聞 2019年(平成31年) 4月27日 土曜日



公明新聞 2019年(令和元年) 6月7日 金曜日



日本海新聞 2019年(平成31年)4月27日 土曜日



聖教新聞 2019年(令和元年)5月21日 火曜日



日本海新聞 2019年(令和元年)5月2日 木曜日



日本海新聞 2019年(令和元年)7月11日 木曜日



朝日新聞 2019年(令和元年)8月1日 木曜日



毎日新聞 2019年(令和元年)9月1日 日曜日



愛媛新聞 2019年(令和元年) 9月21日 土曜日



朝日新聞 2019年(令和元年) 8月12日 月曜日



公明新聞 2019年(令和元年) 8月16日 金曜日



日本海新聞 2019年(令和元年)9月21日 土曜日



高知新聞 2019年(令和元年)9月22日 日曜日



日本海新聞 2019年(令和元年)8月15日 木曜日



徳島新聞 2019年(令和元年)9月21日 土曜日



日本海新聞 2019年(令和元年)9月30日 月曜日



日本海新聞 2019年(令和元年)10月12日 土曜日



日本海新聞 2019年(令和元年)10月12日 土曜日



日本海新聞 2019年(令和元年)10月22日 火曜日



民団新聞 2019年(令和元年)10月16日 水曜日



朝日新聞 2019年(令和元年)10月23日 日曜日



日本海新聞 2019年(令和元年)10月25日 金曜日



日本海新聞 2019年(令和元年)10月27日 日曜日



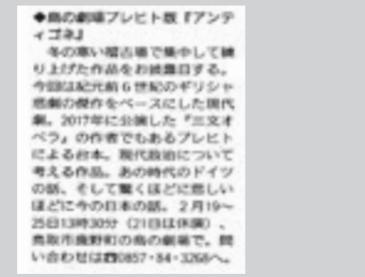
中国新聞 2019年(令和元年)10月23日 金曜日



日本海新聞 2019年(令和元年)10月29日 火曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)1月18日 土曜日



公明新聞 2020年(令和2年)1月24日 金曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)2月9日 日曜日



日本海新聞 2019年(令和元年)11月5日 火曜日



公明新聞 2020年(令和2年)1月31日 金曜日

日本海新聞 2019年(令和元年)11月2日 土曜日



日本海新聞 2019年(令和元年)11月12日 火曜日



日本海新聞2020年(令和2年)2月19日 水曜日



大阪日日新聞2020年(令和2年)2月21日 金曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)3月15日 日曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)3月17日 火曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)3月23日 月曜日

広告



山陰中央新報 2019年(平成31年)4月20日 土曜日



朝日新聞 2019年(平成31年)4月20日 土曜日



日本海新聞 2019年(平成31年)4月21日 日曜日



山陰中央新報 2020年(令和2年)2月15日 土曜日



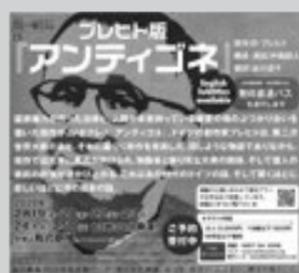
日本海新聞 2019年(令和元年)8月11日 日曜日



朝日新聞 2019年(令和元年)8月10日 土曜日



山陰中央新報 2019年(令和元年)8月12日 月曜日



日本海新聞 2020年(令和2年)2月15日 土曜日



産経新聞 2019年(令和元年)5月15日 水曜日



産経新聞 2019年(令和元年)8月27日 火曜日



産経新聞 2019年(令和元年)9月27日 金曜日



朝日新聞 2019年(令和元年)10月19日 土曜日

お客様の声

【ミニ鳥の演劇祭】

- 鹿野町の町歩きやカフェなど鹿野町を知りながら演劇を楽しむことができました。会場の設営などワクワクするものが多く素敵だと思いました。壁に絵が描けて、いっぱい色んな人の感じたことや思ったことが詰まっているようで、どんどん埋まっていく姿がとても良いと思います。(20代女性)
- GWのお出かけとして「大当たり」でした。ゆったりできて、子どもたちのペースで楽しめました。来る度に施設が整備されて居心地よくなっています。お絵描きコーナーも良い感じでした。ホールも混んでなくて、ゆったり安心して子どもがウロウロできました。本当に来て良かった。(30代女性)
- 独身の頃より拝見してきて、現在は子どもと一緒に楽しむことができていることを幸せに思っています。(30代女性)
- 初めて来させていただきました。車椅子で子どもと来たのですが、スロープやトイレ、席などとても細かく配慮していただき助かりました。1日中劇場にいてもケーキを作ったりお弁当を食べたり、全く飽きませんでした。また来年も来たいです。(30代女性)
- とても良い企画でした。家族揃って楽しめました。ワークショップとお芝居の選択肢があるのがgood。5人家族で、2、3で分かれて楽しませていただきました。さんしょうおは子どもには難しかったようですが、良いと思います。楽しめる年代になった時に楽しめば良いと思います。もっともっと大きくなって、色々なお芝居を見られる劇場になって欲しい!!(30代男性)
- 子ども(5才)がお芝居に興味があるらしく、ワークショップをとても楽しみにしていました。普段そいうような事が出来る場が幼稚園の発表会以外にはないので、とてもいいと思いました。(40代女性)
- 鳥の劇場に来ると、その日だけちょっとしたアートな雰囲気の中で過ごすことができるので、私は好きです。日常のすぐ隣にある非日常。今回のイベントは子どものための工夫を沢山してくださっていて、5才の娘もとても楽しんでいました。真剣に、時に笑って軽いツッコミを入れながら舞台を見た後に、「みんな汗だくだー!」と、役者さんたちの本気ぶりに驚いていたようでした。(40代女性)
- 演劇などの知識は全くありませんが遊び感覚で参加しやすい点も良かったです。「おんがくのワークショップ」は劇団員の中川さんも加わってで、劇団員さんを身近に感じることができ、子どもも大人も楽しめました。来年もまた参加してみたいと思います。(40代女性)
- 鳥の劇場の知名度が上がっても、人を大切に思う気持ち、地域を大切に思う気持ちが伝わるからリーダーとして鹿野に来たくなのです。感謝!!(40代女性)

【剣を鍛える話】

- とても不思議なお話だったと思います。首と首が戦う描写が、とてもリアルで少しゾッとしました。常に語り手の村人みたいな人がいて、いろいろなところで語り継がれているということが、すごく伝わってきました。(10代男性)
- 群像劇のこのころの役者さんのやりとりの細やかさや全体を通しての表情から身体表現の豊かさに感動しました。首を切るシーンは、怖いと思うほどでした。音響で実際に楽器演奏をすることがこんな効果になるのか…とスゴくよくて!!「語り継がれてきた話」という点を崩さず演出されていたことを教えて頂き、なるほど!!と思いました。(20代女性)
- 照明がとても効果的でした。物語に引き込まれて楽しめました。(20代男性)
- ストーリー全体を理解するといより、生で演奏される音楽や奏者の動きも含め俳優の方の肉体や声の動きに、ただただ圧倒されました。アフタートークでは「想像力」「想像力」という言葉がたくさん出ていました。AIの時代になっても想像力はAIにはないものだと思うので、これからの時代に演劇の役割はますます大切なものになるのかと考えさせられました。(50代女性)
- 子どもにも見せたいと思いました。頭で考えるよりも素直に心で感じたいと思いました。(50代男性)
- とても厳かで音楽も良かったです。面白かったです!! 齊藤さんもカッコ良かったです! 皆さん迫力満点でした。これからは通いたいし応援したいと改めて思いました。また楽しませて下さい!おじいさんの髪がふわふわで、雰囲気がおじいさんらしくて面白かったです。皆さんのお顔の表情がこれほど変わってゆくことに驚きました。経済的な視点でなく演劇の視点から世の中を良くしていくような考え方は素敵すぎます。(50代女性)
- 自分では手に取ることもない作品に触れるので、とても楽しみな場所です。アフタートークも、作り側からの「ウラ話」的なものが聞けて面白いです。感想に「正解」はないんだと思いがエネルギーももらって帰ります。(50代女性)
- 今回初めて「剣を鍛える話」を観ました。(初演が2007年だったとは…) 始めから最後まで、息をつかず…でした!熱演、多くの配役をフル出演と、全て魅せられました!! 演出すごいです!生の音、パーカッションの演出も素晴らしいかったです。今まで観た中で一番魂がふるえました。終わったら涙が出ていました。近くにこんな素晴らしい劇場があること、幸せに思います。ありがとうございました。役者さんは体力一番!なのですね。(60代女性)

【プレヒト版 アンティゴネ】

- 戯曲講座に以前参加させていただきました。事前に小説を読んでいたこともあり、話で頭に入ってきて、とても面白く楽しませていただきました。(10代女性)
- とても考えるものがありました。政治が悪い!!とか指導者が悪い!!ではなく、政治家や指導者をそうさせているのは誰だ?本当に私たちは振り回されているだけなのか?

- 自分にも「それは言っても他人事」と思っている節があると気付かされました。学ぶ余裕がなくならないように、しっかりと多くのことを学んでいきたいです。様々なことを考えるきっかけになりました。(10代男性)
- 救いようのない、という表現が正しいのか。権力の暴走とそれを黙認する民、声を上げる者はその黙認する民に糾弾される構図。最後、「ああ、これは民が主人公だったのだな」と認識しました。このつながりがとても爽快かつ怖かったです。衣装も大変キレイでしたが、韓国のものがモチーフでしたよ。国も歴史も超えたメッセージが込められていたのかと思いました。(20代男性)
- やっとなんと忘れてしまう…を繰り返す。お芝居の役割はこういうところにあるのだと改めて思いました。観客に向かって直接語りかけられるのは演劇の特権!! 今日もうハッとさせられました。なかなか映画では正面向いて言えないかも。話がすれ違って、すり替わって、責任を押し付けあって、最後はボロキレを抱くのみ。人間はどうしてこうも繰り返すのか…。自分も傍観者ではないかと思いつつ目の前の生活に流されていく、どうすればいいのか考えさせられました。プレヒトはキャラクターに感情移入よりも客観視して観られるので、いろいろ考えられます。姉妹の掛け合いのシーン、アンティゴネと王の掛け合いのシーン、良かったです。(30代女性)
- 迫力がとにかくすごかったです。ふと老人ホームのワンシーンに戻ったり胸をしめつけられつつも和らぐ部分もあったり舞台にいる気分で見せていただきました。セリフの中の「お前たちも黙認しているんだ」という言葉はグサッときました。いろんな事に自分の意見を言わず世の中のせいにしてたり見て見ぬふりをしているなと。見方を変えると正義であり、でも違う方から見ると正義でなかったり。いろんな見方があることを忘れないでいこうと思いました。まだ余韻にひたって頭がボーっとしていますが感動しました。俳優さんたちの目が本当にステキでした。(30代女性)
- 視覚的に大変美しい演劇でした。終盤のセリフのひとつひとつがアリティを持っていて怖いくらい心に突き刺さりました。この演劇が世界を変えようとしているのを感じます。自分を感じているだけではないのか、自分の限られた時間でもう一歩踏み出すことは何か考えていきたいです。私にとっても「年取って賢くなるのを待つ余裕はない」のセリフは忘れられない言葉になりました。(40代女性)
- おととい初めて来て、面白く思いました来てしまいました。齊藤さんの王様役に特に凄かったです(他の方も凄かったです)。ぜひまた来たいと思いました。ラジオも楽しく聴かせてもらってます。これからも鳥取や鹿野に密着で頑張ってください。(40代男性)
- 最初に老人たちが出てくる始まりがとても良くて笑いが止まらず、これから始まるお芝居はどうなるのかしら?この老人たちによって?と期待感も大きくなり演出のよさ、上手さに感動していたら内容は重くてどんどん気持ちも暗くなってきて、芸術としての舞台、俳優さんたちの演技に拍手をしながら心の中は複雑だった。楽しむよりは、えらいものを見せてもらった…(50代女性)
- 今回もむずかしかったのでアフタートークがいつもためになります。時代が複雑になるほど中島さんのメッセージに共感します。2020も参加します。(50代男性)
- 統治する者と、統治される者、自分の考えに従って命をかける者、その中で空気のようなものが支配し、何が狂い真実が判らなくなりコントロールを失う。そして崩壊を迎える。一度立ち止まって空気に流れられないことの難しさを感じました。面白かった。また来ます。(60代男性)
- 「自分で考えること」が大切であることの理解の一助になる芝居である。現在の政治に当てはめると、自分の意見を持たない現象だけを見て言論している状況の反映とも見えた。(80代以上男性)

【戯曲の講座：班女／熊野／オイディプス王／アンティゴネー／例外と原則】

- 班女をステージで観た時は、キツネにつままれた感ありましたが、花子がウソをついている解釈でストンと腑に落ちました。(50代女性)
- 深く掘り下げて作品を読むことの楽しさをまた経験しました。一人ではなかなかここまで読み込めません。(60代男性)
- ギリシャ悲劇を読むのは初めてでした。面白く読むことができました。又、その他の作品も読んでみたいと思います。(60代男性)
- 中島さんが提示した着目点や参加者の方の意見が聞けて良かった。(30代女性)
- 皆さんで読み合せするとイメージしやすく、解説もしてくださいるので作品を味わえました。ありがとうございます。(50代女性)

【小鳥の学校：世界でいちばんやかましい音】

- とても感動しました。声の大きさや動きははりよくすごく、協力の形が見えてとても楽しそうだなと思いました。(10代女性)
- 子どもそれぞれに苦手な事をがんばって、良いものができていたと思います。子どもの成長にびっくりしました。(30代男性)
- 毎年毎年、小鳥の学校の公演楽しみにしています。毎年感動させていただいています。ひっこみあんだったり、意見がいえなかったりが、人前で堂々と自分の言葉を発せられるようになったり、周囲の状況で動ける様になったと自分の成長を語ってくれる子どもたち。鳥の学校の力、子どもたち自身の力、すばらしいと思います。我が子そんな力があるのかなー、通ってほしいなーと思います。(40代女性)
- 公演に到るまでのみなさんの努力が伝わってきました。1人1人の子が自信を持って自分の意見を述べる姿がとても頼もしいと感じました。また来年も楽しみにしています。(40代男性)

# お客様の声

- このような状況で、新聞やニュースはコロナのことばかり、そんな今に少しつかれ気味の今日この頃でした。でも、子ども達の発する大きな声や、やかましい音をさがし次々と提案するもの王子からことごとくダメだしが…すごすご立ち去っていく様子に、プツとふきだしてしまいました。みていて、あつ…たのしいなあと思ひました。色々イベントが自粛される中、色々な意見はあるかと思いますが、少しずつ日常をとりもどしていきたいと思ひ、そして子ども達の笑顔や日々のくらしのありがたさを感じました。ありがとうございました!! たのしい1日でした!! (40代女性)
- 原作をみんなで話をして広げ、それを演じるという姿に感激しました。子どもたちの考える力はすごいものだと思います。その時間や、場を提供して下さったみなさんに感謝です。(40代男性)
- 小5の教科書の物語をうまくかえて劇にしている楽しかったです。ガヤガヤ国の説明(はじめ)が巧みで物語にはいり込みました。山場への盛り上げ方もおもしろく、エンディングがはじめとの対比をうまく表していて、しつとりと終わっていい気持ちになりました。衣装を工夫したと聞き、たしかに海外の人とか、黒→白への変化とか、演劇の盛り上げに役がっていました。この時期なのでぜひ応援にという気持ちと、小5の教科書がどう演出されているか知りたくて来ました。最初と最後のプレゼンテーションで20人の顔や声、気持ちを直接聞くのも楽しかったです。(50代男性)

## 【つくる高校生：友達】

- すごく上手でびっくりしました。ストーリーはむずかしい所もありましたがおもしろかった。(10代女性)
- 若者が演劇を通して国際交流をすることは、とても素晴らしいと思います。(40代女性)
- 権を作るところが印象深かったです。限りなく舞台装置をそぎ落としての空間構成がキャストの演技の鑑賞に集中できたような感じがします。(40代男性)
- アフタートークの時間があり、他人の考えを聞くことができ良かった。見た後の良い意味で後味の悪さが、今の時世を表しているようだった。高校生の底力を感じました。韓国との文化交流をぜひ成功して頂きたい。(50代女性)
- 孫が生きていて、いいところに入って良かったと思います。ありがとうございました。(60代女性)
- 高校生が1960年代の作品に向かうことに勇気を感じた。嬉しかった。内容は難しいけれど意味はある。最後の閉じてある権は上手な小道具であった。シュール的、前衛的で考えさせられるのが良い。国と国との政治的な問題に市民交流事業を巻き込んでほしい。文化的交流事業は続けていくべきである。特に若い人の交流は大切にしたい。(60代男性)
- 2ヶ月弱の取り組みの成果、若い方の躍動に圧倒されました。日韓の政治状況のため、急遽中止となった「コドンオ」の上演、この日のために力を尽くしてきた両国の高校生、関係者の残念さと思うと胸が痛みます。(60代男性)
- みんなの演技はとても素晴らしい。この人達はまだまだ伸びる。今後の活躍を期待したい。(70代女性)

## 【高校生と一緒に名作戯曲を読む：戦場のピクニック／例外と原則】

- 印象的だったセリフは、「どうしてあなたは敵なんですか」です。たくさんある物語の疑問点を少しずつ解決していくのがとても面白かったです。(16歳男性)
- 自分が今まで気づけなかったことや一人では分からなかったことに気付けた良かったです。これからの演劇の活動に生かしたいです。(15歳女性)
- 不平等な社会やカースト制度に反発する人々が印象的でした。表現力や動きのイキキキ、想像して読むという部分が良かったです。(15歳男性)
- 裁判官は商人を有罪にも無罪にも出来る立場にいたと思います。それで無罪にしたのは、人間の汚さという部分が出ていた様面白かったです。演劇の技術的な部分から、戯曲の面白さなど、深いところまで聞けてよかったです。(16歳女性)

## 【大人のためのトリック】

- 普段経験することのできないことができて楽しかったです。恥ずかしがり屋で人と話したりするのも苦手な私ですが、笑い合うこともでき良い思い出になりました。(20代女性)
- 楽しかったです。周りを見ながら合わせる楽しさや、言葉で表現できなくても別の手段で伝えればよいのだということがわかりました。また、自分の動きの味わいがわかったので、積極的に生かしていきたいと思ひました。(20代女性)
- 言葉なしでのコミュニケーションを豊かにすることが今の時代必要だと思う。みんなと作り上げていく過程がとても楽しかった。(50代女性)

## 【余越保子滞在制作：ダンスワークショップ／クリエーションワークショップ】

- 今までにない新しい体験でした。身体の動きについてや内面について微量ながら知れた気がします。(10代女性)
- 年齢等の枠が無い企画は、嬉しい時間を過ごせて感謝の心です。宇宙を感じるような時間でした。(70代女性)
- 色々な形のダンスがあるし、ダンスとは何かを改めて考えさせられました。参加者の方にも感謝です。(60代男性)

## 【余越保子滞在制作：shuffleyamamba】

- ダンスといえどもストーリーがあって面白かったです。深いなあーと思いました。(50代男性)
- 芸術ってこういうものなんだ。すごい世界を見せていただいた。美しさ、そして深いものがあって素晴らしい。年代等無し
- 滞在制作の成果発表としては何度も見てきて、焦らされて、焦らされて、待ちに待った完成版。とても面白かったです。ダンスと向き合うことの深みがすごかった。(30代男性)

## 【若手演劇人：弱法師】

- 地域住民として普段触れることの減るタイプの観劇経験にもなるため、ぜひとも続けていただきたいです。(30代男性)
- 間近で見ると役者の皆さんの熱量を直に感じることができるのでとても良かったです。進化が楽しみです。(50代男性)
- 面白かったです。普段着で音楽も無くそれでも、引き込まれました。役者たちの思いが伝わりました。(50代男性)
- 滞在制作も拝見しました。狂人性という演じ方の違いが面白かったです。(30代男性)
- 沖縄でも見ましたが同じ広さのエリアの中で素敵な余白とともに上演されていたことがここでやっている、ここに作品を持ってきた意義を感じました。丁寧に扱われた三島由紀夫の言葉も受け取りやすく、光も音もそこに向き合っていました。ここでやっていることに感動しています。(30代女性)

## 【じゆう劇場：「マクベス」からさまよい出たもの】

- なぜ人は舞台上立つのか。というようなテーマを感じました。人生に立つ意味と似ているように思ひます。大抵の役割は永遠でなく舞台を降り、又は人生を降りれば、王でも総理でもメダリストでもない。不思議ですね。春から演劇の勉強をする私が出会うべきに出会った演目だったと思います。(10代女性)
- 障がいの有無に関わらず、演者の皆さんの演技に引き込まれ胸を打たれました。「配役」の中で現政権への皮肉、なかなか面白かったです。ひかるさんの言葉や演技、とても引き込まれました。もっと色んな人に見て欲しいと思ひ涙が出そうになりました。価値のある作品です。(20代女性)
- 「誰もが自分の役を探して動き回っている」というセリフが非常にズッシリきました。マクベスが王という役に押しつぶされてしまった自分らしさ、ただそこに生きている、存在していることの価値といった事柄、こうしたことに対する想いが一気に身体を駆け巡りました。(20代男性)
- 時代の流れに沿った内容をタイムリーに観させてくださいました。「脳天直撃」のような言葉に出てこないこの感覚、素晴らしい。ずっと続けて欲しいです!(30代女性)
- 3才の子が、こわごわしたけど楽しかったとのこと。面白かったです。(30代男性)
- 以前と全然違い、即興じゃなくガッツリ芝居でびっくりしました。(40代女性)
- とても素晴らしい公演でした。今回初めて観させてくださいましたが、また観たいと思ひました。障がいのある方の無限の力を感じることができました。(40代女性)
- マクベスという作品に思い入れがあり見に来ました。細かい点までよく考えられていて驚きました。(50代男性)
- 「障がい」という括りで何かを語る事がなくなるようにしていきたい。その大きなきっかけを、希望を見たような舞台でした。できること、できないこと、いわゆる「障がい以外」にもある訳ですから、助けられ、助ける社会を創っていただきたいと思ひます。素晴らしい舞台とメッセージでドキリとさせられました。(50代男性)
- 言葉が無い。素晴らしい。中島さんバンザイ。また鹿野に行きます。イワンのほかも良かったが、マクベス最高でした。(70代男性)

## 【じゆう劇場：短編作品】

- 車椅子に乗って演技をしていた役者さんのセリフの言い方や声量にじびれるものを感じました。自分自身も自分に自信が持てなかつたり、自分が嫌いになったりと苦しい思いを何回もしました。人と社会を繋ぐストーリーにとっても感動させられました。(10代男性)
- エネルギーを沢山もらった気がする。考え方が自分より断然大人だと感じた。今まで自分が気にしていたこと嫌なことなど、そんなもの跳ね返して頑張ろうと思った。実際に初めて障がいのある方の気持ちを聞けたことが何よりも良い経験になった。必ずもう一度見たいと思う。(10代女性)
- 障がいがある、ないは関係なく、全ての人が同じ人間であるということを再確認させられた。人を外見だけで判断せず、しっかり中をみて関わっていきたくて思った。(10代女性)
- 感情がよく伝わってきてみんな演技が上手だなと思ひました。「たぶん、朝食の後に」の二人のやりとりが面白かったです。「いらっしゃいませ、ウォルマートへ」はユーモアが沢山あって面白かったです。個人的にストーリーもキャラクターもめちゃくちゃ好きでした。演劇を見るのは文化祭以外で初めてなので、非常に良い経験をさせていただきました。(10代女性)
- 見に来て良かったなと思ひました。私は、自分の弱い所を人に見せないようにしようと無意識にもしてしまうけど、今日の劇を見て勇気をもらいました。言葉の一つ一つが強くてかっこ良かったです。(20代女性)

# 【資料1】鳥の劇場 2019年度プログラム 観客アンケート集計結果

2019年度 創るプログラム	「ミニ鳥の演劇祭」		「剣を鍛える話」		プレヒト版「アンティゴネ」	
観客総数	893		247		400	
アンケート数	142		92		177	
アンケート回収率		15.9%		37.2%		44.3%

この公演をどうやってお知りになりましたか?(複数回答可)	140	91	174	174	174	
鳥の劇場からの案内	66	37.1%	45	39.8%	82	38.1%
郵便	46	67.6%	33	57.9%	62	67.4%
メール	18	26.5%	18	31.6%	23	25.0%
劇場で	4	5.9%	6	10.5%	7	7.6%
チラシ・ポスター	74	41.6%	39	34.5%	70	32.6%
街なか	11	16.2%	17	41.5%	33	51.6%
駅	1	1.5%	3	7.3%	7	10.9%
列車内	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
学校	49	72.1%	3	7.3%	3	4.7%
他の施設(劇場など)	5	7.4%	8	19.5%	15	23.4%
他団体の公演	1	1.5%	3	7.3%	1	1.6%
その他	1	1.5%	7	17.1%	5	7.8%
各種メディア	24	13.5%	15	13.3%	49	22.8%
WEBサイト	7	29.2%	8	50.0%	10	15.9%
SNS(Twitter・Facebook)	6	25.0%	3	18.8%	11	17.5%
ラジオ[トリラジオ]	2	8.3%	0	0.0%	2	3.2%
新聞 新聞記事	9	37.5%	5	31.3%	18	28.6%
新聞折り込み広告					11	17.5%
雑誌 フリーペーパー[くらら]	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%
テレビ[放送・CM]					10	15.9%
その他	14	7.9%	14	12.4%	14	6.5%
その他(記述回答)	地域の方から、知人、友人、家族からの勧め、前から鳥取にできた事を知っていたので		調べた、知人、友人、子どもから、仕事の関係で		口コミ、ネット、知人、親友、家族、夫、娘	

現在のお住まいはどちらですか?	142	91	176	176
鹿野町内	4	2.8%	2	5.1%
鳥取市内(鹿野町以外)	73	51.4%	46	46.6%
鳥取県内(鳥取市以外)	48	33.8%	26	29.5%
鳥取県外	17	12.0%	17	18.7%
その他	0	0.0%	0	0.0%
県外内訳	大阪4、岡山4、福岡2、広島2、京都2、島根1、兵庫1、県名記載無し1	兵庫6、島根4、岡山4、京都1、福岡1、県名記載無し1	鳥根7、岡山7、兵庫5、大阪5、東京2、京都1、奈良1、神奈川1、埼玉1、宮城1、記載無し2	

性別	139	92	175	175
女性	102	73.4%	53	57.6%
男性	37	26.6%	39	42.4%
その他	0	0.0%	0	0.0%

年齢	141	91	175	175
10歳未満	26	18.4%	0	0.0%
10代	13	9.2%	4	4.4%
20代	7	5.0%	11	12.1%
30代	20	14.2%	6	6.6%
40代	37	26.2%	10	11.0%
50代	20	14.2%	25	27.5%
60代	13	9.2%	19	20.9%
70代	4	2.8%	12	13.2%
80歳以上	1	0.7%	4	4.4%

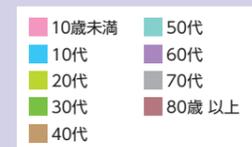
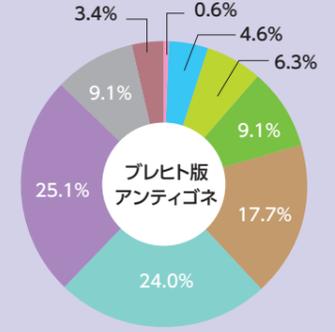
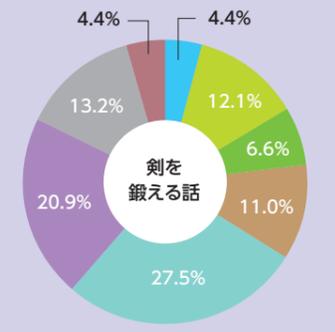
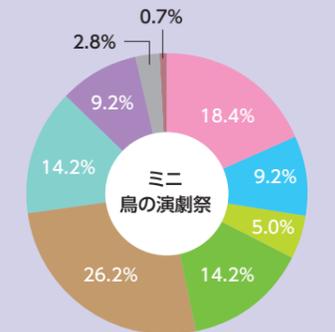
鳥の劇場にはどれくらい来場されますか?	141	92	176	176
来場したことがある	100	70.9%	69	75.0%
今回が初めて	41	29.1%	23	25.0%

前回来場されたのはいつごろですか?	96	63	127	127
半年以内	39	40.6%	30	47.6%
一年以内	29	30.2%	20	31.7%
一年以上前	28	29.2%	13	20.6%

年にどれくらい来場されますか?	81	58	104	104
1回	26	32.1%	13	22.4%
2~3回	27	33.3%	35	60.3%
4回以上	21	25.9%	5	8.6%
その他	7	8.6%	5	8.6%

※「アンケート数」と「総回答数」の誤差は、感想のみ記載の回答があるためです。  
※設問の違いにより空欄部分があります。

創るプログラム  
来場者年代比較



【資料1】鳥の劇場 2019年度プログラム 観客アンケート集計結果

2019年度 BeSeTo演劇祭26+鳥の演劇祭12		「班女」		「葵上」		じゆう劇場鳥取公演 (演劇祭)	
観客総数	149		186		223		
アンケート数	31		58		83		
アンケート回収率	20.8%		31.2%		37.2%		
この公演をどうやってお知りになりましたか?(複数回答可)	46		81		79		
鳥の劇場からの案内	18	39.1%	39	48.1%	31	31.3%	
郵便	12	60.0%	23	48.9%	18	52.9%	
メール	4	20.0%	7	14.9%	10	29.4%	
劇場で	4	20.0%	17	36.2%	6	17.6%	
チラシ・ポスター	12	26.1%	19	23.5%	28	28.3%	
街なか	4	28.6%	8	28.6%	7	21.9%	
若桜街道ペナント	1	7.1%	0	0.0%	2	6.3%	
バードハット横バナー	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
駅	1	7.1%	2	7.1%	2	6.3%	
列車内	0	0.0%	1	3.6%	0	0.0%	
鳥取空港	0	0.0%	1	3.6%	0	0.0%	
学校	0	0.0%	5	17.9%	10	31.3%	
他団体の公演	1	7.1%	0	0.0%	1	3.1%	
新聞折込	1	7.1%	0	0.0%	2	6.3%	
郵便局	1	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	
他の施設(劇場・美術館など)	3	21.4%	6	21.4%	3	9.4%	
その他	2	14.3%	5	17.9%	5	15.6%	
各種メディア	14	30.4%	18	22.2%	9	9.1%	
WEBサイト	6	30.0%	8	40.0%	6	50.0%	
SNS	6	30.0%	4	20.0%	4	33.3%	
ラジオ【トリラジオ】	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
新聞	8	40.0%	8	40.0%	2	16.7%	
テレビ【日本海テレビ】	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
地方情報誌広告(comecomeママ)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
演劇情報誌	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
その他	2	4.3%	5	6.2%	31	31.3%	
その他(記述回答)	友人、鳥取おやこ劇場のチラシ		友人の紹介、知り合いからの勧め、鳥取市に在住の家族から勧められて、参加カンパニー		知人から、友人の誘い、仕事関係で、大学のゼミ研修、出演者から、出演者家族		
現在のお住まいはどちらですか?	30		58		80		
鹿野町内	3	10.0%	6	10.3%	4	5.0%	
鳥取市内(鹿野町以外)	16	53.3%	24	41.4%	39	48.8%	
鳥取県内(鳥取市以外)	5	16.7%	13	22.4%	23	28.8%	
鳥取県外	6	20.0%	15	25.9%	14	17.5%	
国外	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
県外・国外内訳	鳥根2、岡山2、兵庫1、無回答1		沖繩5、岡山2、鳥根2、兵庫2、広島1、京都1、東京1、千葉1		大原6、兵庫3、鳥根1、滋賀1、千葉1、無回答2		
性別	30		58		80		
女性	17	56.7%	37	63.8%	50	62.5%	
男性	13	43.3%	20	34.5%	30	37.5%	
その他	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	
年齢	30		58		79		
10歳未満	0	0.0%	2	3.4%	2	2.5%	
10代	1	3.3%	14	24.1%	5	6.3%	
20代	1	3.3%	7	12.1%	13	16.5%	
30代	6	20.0%	5	8.6%	10	12.7%	
40代	6	20.0%	8	13.8%	16	20.3%	
50代	8	26.7%	9	15.5%	12	15.2%	
60代	8	26.7%	12	20.7%	13	16.5%	
70代	0	0.0%	1	1.7%	6	7.6%	
80歳以上	0	0.0%	0	0.0%	2	2.5%	
以前このイベントに来場したことがありますか?	30		58		80		
来場したことがある	21	70.0%	38	65.5%	37	46.3%	
今回が初めて	9	30.0%	20	34.5%	43	53.8%	
前回来場されたのはいつごろですか?	13		32		18		
半年以内	9	69.2%	16	50.0%	6	33.3%	
一年以上	3	23.1%	8	25.0%	6	33.3%	
一年以上前	1	7.7%	8	25.0%	6	33.3%	
鳥の劇場には年にどれくらい来場されますか?	16		32		21		
1回	2	12.5%	12	37.5%	14	66.7%	
2~3回	10	62.5%	11	34.4%	6	28.6%	
4回以上	4	25.0%	8	25.0%	1	4.8%	

2019年度じゆう劇場 「マクベス」からさまよい出たもの		じゆう劇場倉吉公演 (倉吉未来中心)		
観客総数	271		271	
アンケート数	142		142	
アンケート回収率	52.4%		52.4%	
この公演をどうやってお知りになりましたか?(複数回答可)	136		136	
鳥の劇場からの案内	43	25.4%	43	25.4%
郵便	30	85.7%	30	85.7%
メール	4	11.4%	4	11.4%
劇場で	1	2.9%	1	2.9%
チラシ・ポスター	47	27.8%	47	27.8%
街なか	7	31.8%	7	31.8%
駅	1	4.5%	1	4.5%
列車内	0	0.0%	0	0.0%
鳥取空港	0	0.0%	0	0.0%
学校	1	4.5%	1	4.5%
他団体の公演	0	0.0%	0	0.0%
他の施設(劇場・美術館など)	8	36.4%	8	36.4%
その他	5	22.7%	5	22.7%
各種メディア	52	30.8%	52	30.8%
WEBサイト	3	6.0%	3	6.0%
SNS	9	18.0%	9	18.0%
ラジオ【トリラジオ】	0	0.0%	0	0.0%
新聞掲載記事	10	20.0%	10	20.0%
新聞折込広告	24	48.0%	24	48.0%
テレビCM	4	8.0%	4	8.0%
その他	27	16.0%	27	16.0%
その他(記述回答)	手話通訳に興味があった、職場、知人、友人の勧め、出演者関係の紹介、出演者家族			
現在のお住まいはどちらですか?	140		140	
倉吉市内	43	30.7%	43	30.7%
鳥取市内	21	15.0%	21	15.0%
鳥取県内(鳥取市以外)	58	41.4%	58	41.4%
鳥取県外	18	12.9%	18	12.9%
国外	0	0.0%	0	0.0%
県外・国外内訳	岡山11、大阪2、鳥根1、広島1、兵庫1、和歌山1、宮城1			
性別	140		140	
女性	83	59.3%	83	59.3%
男性	57	40.7%	57	40.7%
その他	0	0.0%	0	0.0%
年齢	140		140	
10歳未満	2	1.4%	2	1.4%
10代	4	2.9%	4	2.9%
20代	12	8.6%	12	8.6%
30代	11	7.9%	11	7.9%
40代	24	17.1%	24	17.1%
50代	28	20.0%	28	20.0%
60代	34	24.3%	34	24.3%
70代	19	13.6%	19	13.6%
80歳以上	6	4.3%	6	4.3%
じゆう劇場の公演を観劇されたことがありますか?	140		140	
観劇したことがある	57	40.7%	57	40.7%
今回が初めて	83	59.3%	83	59.3%
前回観劇されたのはいつですか?	52		52	
2019年【鳥の演劇祭12】	14	26.9%	14	26.9%
2018年【鳥の演劇祭11】	13	25.0%	13	25.0%
それ以外	25	48.1%	25	48.1%
※「アンケート数」と「総回答数」の誤差は、感想のみ記載の回答があるためです。				

【資料2】鳥の劇場 2019年度収支決算

収入の部

科目	2019年度		2018年度		比較 (a)-(b)
	決算額(a)	構成比	決算額(b)	構成比	
チケット収入・受講料	3,408,300	3.4%	4,550,500	4.8%	△ 1,142,200
外部上演料・講師料・出演料等	6,571,270	6.6%	3,444,655	3.7%	3,126,615
受託費	35,785,000	35.9%	37,401,800	39.9%	△ 1,616,800
鳥カフェ・物販売上	718,544	0.7%	532,284	0.6%	186,260
雑収入	4,009,581	4.0%	1,898,484	2.0%	2,111,097
寄付金(サポーター) ※1	2,935,000	2.9%	3,685,000	3.9%	△ 750,000
寄付金(企業協賛ほか)、受取会費	75,000	0.1%	90,000	0.1%	△ 15,000
助成金・補助金	46,193,975	46.3%	42,226,575	45.0%	3,967,400
合計(A)	99,696,670	100.0%	93,829,298	100.0%	5,867,372

※1 2018年度:266人/737口、2019年度:214人/599口(人数には団体や法人を含む)  
2018、2019年度ともに、公益社団法人企業メセナ協議会の助成認定制度を活用した寄付金含む  
2018年度「近代能楽集」公演に対し:495,000円、2019年度「アンティゴネ」公演に対し:4600,000円

支出の部

科目	2019年度		2018年度		比較 (a)-(b)
	決算額(a)	構成比	決算額(b)	構成比	
事業費	37,585,184	37.4%	36,847,708	38.7%	737,476
メンバー人件費	45,935,069	45.7%	40,698,775	42.7%	5,236,294
その他	16,995,960	16.9%	17,782,899	18.7%	△ 786,939
管理費・その他	16,995,960	16.9%	17,782,899	18.7%	△ 786,939
合計(B)	100,516,213	100.0%	95,329,382	100.0%	5,186,831
収支差額(A)-(B)	△ 819,543		△ 1,500,084		

助成金・補助金内訳

科目	2019年度		2018年度		比較 (a)-(b)
	決算額(a)	構成比	決算額(b)	構成比	
ごうぎん鳥取文化振興財団	100,000	0.22%	100,000	0.24%	0
公益信託 とりぎん青い鳥基金	250,000	0.54%	0	0.00%	250,000
独立行政法人日本芸術文化振興会 ※1	28,099,975	60.83%	27,690,575	65.58%	409,400
鳥取県 ※2	13,934,000	30.16%	13,613,000	32.24%	321,000
山陰・夢みなと博覧会記念基金 ※3	775,000	1.68%	823,000	1.95%	△ 48,000
独立行政法人日本芸術文化振興会 ※4	3,015,000	6.53%	0	0.00%	3,015,000
その他 ※5	20,000	0.04%	0	0.00%	20,000
合計	46,193,975	100.00%	42,226,575	100.00%	3,967,400

※1 「平成31年度文化芸術振興費補助金」劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
※2 文化芸術地域モデル全国発信事業補助金  
※3 国際航空便利用促進費(定期便)(日韓高校生交流 安山)  
※4 「平成31年度文化芸術振興費補助金」国際芸術交流支援事業  
※5 鹿野町での開催事業に対し鹿野町文化団体連絡協議会より

鳥の劇場運営委員会への補助金

◎「鳥の演劇祭12」・「鳥取ベセト」・表現WS「トリジューク」 鳥取県「鳥の劇場運営委員会補助金」	46,523,000円
※文化庁「文化芸術創造拠点形成事業」からの補助金を含む 鳥取市「鳥取市文化芸術事業に関する補助金」	2,000,000円
◎「じゆう劇場」 鳥取県「鳥取県障がい者と健常者がともに作る芸術事業補助金」	26,906,000円
※文化庁「文化芸術創造拠点形成事業」からの補助金を含む	



鳥取市鹿野町鹿野1812-1 TEL(0857)84-3268  
www.birdtheatre.org